

第8回 周南地域の県管理河川における 大規模氾濫に関する減災対策協議会

議事次第

- (1) 規約・流域治水部会設置要綱の改正
- (2) 取組の進捗状況
- (3) 「地域の取組方針」の見直し
- (4) 流域治水の取組

配布資料

- | | |
|------------------|---------|
| ・ 規約 | ・・・ 資料1 |
| ・ 流域治水部会設置要綱(案) | ・・・ 資料2 |
| ・ 地域の取組方針(案) | ・・・ 資料3 |
| ・ 協議会資料 | ・・・ 資料4 |
| ・ 減災に係る取組の進捗状況 | ・・・ 資料5 |
| ・ 地域の取組方針(見え消し版) | ・・・ 資料6 |

周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会 規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会（以下「協議会」という。）とする。

(設 置)

第2条 協議会は、水防法（昭和24年法律第193号）第15条の10に基づく都道府県大規模氾濫減災協議会として設置する。

(目 的)

第3条 協議会は、周南市内の県管理河川における局所的な集中豪雨や堤防決壊等による大規模な浸水被害に備え、周南市、下関地方気象台及び山口県が連携して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的かつ計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的とする。

(協議会の対象河川)

第4条 協議会は、島田川、島地川、錦川、渋川、西光寺川、末武川、富田川、夜市川、その他周南市内の県管理河川を対象とする。

(協議会)

第5条 協議会は、別表1の職にある者をもって構成する。

2 協議会は、前項によるもののほか、必要に応じて別表1の職にある者以外の者（学識経験者等）に出席を要請し、意見を求めることができる。

(協議会の実施事項)

第6条 協議会は第3条の目的を遂行するため、次に掲げる事項を実施する。

- (1) 現状の水害リスク情報や取組状況の共有
- (2) 円滑かつ迅速な避難のための取組、的確な水防活動のための取組、氾濫水の排水施設運用等に関する取組に対して各構成員が取り組む事項を「地域の取組方針」として作成する。
- (3) 「地域の取組方針」のフォローアップ
- (4) その他大規模氾濫に対する減災対策に必要な事項

(幹事会)

第7条 協議会の円滑な運営を行うため、幹事会を設ける。

2 幹事会は別表2の職にある者をもって構成する。ただし、必要に応じて幹事を追加することができる。

3 幹事会は、前項によるもののほか、必要に応じて別表2の職にある者以外の者（学識経験者等）に出席を要請し、意見を求めることができる。

(幹事会の実施事項)

第8条 幹事会は、協議会の運営に必要な情報交換、調査、分析、減災対策等の各種検討、調整を行うこととし、結果を協議会へ報告する。

(部会の設置)

第9条 協議会は、第3条の目的を達成するために協議・検討が必要な事項ごとに部会を設置することができる。

2 部会の組織、運営その他必要な事項は、別に定める。

(会議の公開)

第10条 協議会は、原則として報道機関を通じて公開とする。ただし、審議内容によっては、協議会に諮り、非公開とすることができる。

2 幹事会は、原則非公開とする。

(協議会資料等の公表)

第11条 協議会に提出された資料等については、速やかに公表するものとする。ただし、個人情報等で公表することが適切でない資料等については、協議会の了解を得て公表しないものとする。

2 協議会の議事については、事務局が議事概要を作成し、出席した委員の確認を得た後、公表するものとする。

(事務局)

第12条 協議会及び幹事会の事務処理を行うため、山口県土木建築部河川課に事務局を置く。

2 事務局は、必要に応じて各構成員の担当者を参集し担当者会議を開催することができる。

(規約の改正)

第13条 本規約の改正は、協議会の決議を得なければならない。

(雑則)

第14条 この規約に定めるもののほか、協議会の議事の手続きその他の運営に関し必要な事項については、協議会で定めるものとする。

(附 則)

本規約は、平成29年5月18日から施行する。

一部改正、平成30年2月23日

一部改正、令和元年5月28日

一部改正、令和3年6月15日

周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会委員

- (委員) 周南市長
国土交通省 中国地方整備局 山口河川国道事務所長
気象庁 福岡管区气象台 下関地方气象台長
山口県 総務部 理事 (危機管理担当)
〃 土木建築部 周南土木建築事務所長

周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会幹事

- (幹 事) 周南市 防災危機管理課長
 〃 河川港湾課長
国土交通省 中国地方整備局 山口河川国道事務所 島地川ダム管理支所長
気象庁 福岡管区气象台 下関地方气象台 防災管理官
山口県 総務部 防災危機管理課長
 〃 土木建築部 河川課長
 〃 〃 菅野ダム管理事務所長
 〃 〃 向道ダム管理事務所長
 〃 〃 川上ダム管理事務所長
 〃 〃 周南土木建築事務所 次長

周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会
流域治水部会 設置要綱 (案)

(設置)

第1条 「周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会」(以下、「協議会」という。)規約第9条の規定に基づき、「流域治水部会」(以下、「部会」という。)を置く。

(目的)

第2条 近年の激甚な水害や、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的とする。

(実施事項)

第3条 部会は、次に掲げる事項を実施し、その結果を協議会、幹事に報告する。

- (1) 「流域治水」の全体像の共有・検討
- (2) 「流域治水プロジェクト」のとりまとめ
- (3) 「流域治水プロジェクト」に基づく対策の実施状況のフォローアップ
- (4) その他、流域治水に関して必要な事項

(組織構成)

第4条 部会は、別紙に掲げる部会員をもって構成する。

2 部会は、前項によるもののほか、必要に応じて部会員以外の者に意見を求めることができる。

(会議の公開)

第5条 部会は、原則非公開とし、部会の結果を協議会へ報告することにより、公開と見なす。

(事務局)

第6条 部会の庶務を行うため、山口県土木建築部河川課に事務局を置く。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項については、部会で定めるものとする。

(附則)

本要綱は、令和3年6月15日から施行する。

一部改訂、令和5年 月 日

周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会
流域治水部会

(部会員)

周南市 防災危機管理課

周南市 農林課

周南市 河川港湾課

周南市 都市政策課

周南市 上下水道局企画調整課

気象庁 福岡管区气象台 下関地方气象台

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 山口水源林整備事務所

山口県 農林水産部 農村整備課

山口県 農林水産部 森林整備課

山口県 農林水産部 周南農林水産事務所

山口県 土木建築部 都市計画課

山口県 土木建築部 砂防課

山口県 土木建築部 周南土木建築事務所

山口県 土木建築部 河川課

周南地域の減災に係る取組方針 (案)

令和〇年〇月〇日

周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会

1 はじめに

平成27年9月の関東・東北豪雨では、施設的能力を上回る洪水により利根川水系鬼怒川の堤防が決壊し、氾濫流による家屋の倒壊・流失や広範囲かつ長期間の浸水が発生した。また、これらに住民の避難の遅れも加わり、近年の水害では例を見ないほどの多数の孤立者が発生する事態となった。

こうした背景から、国土交通省では、施設では守り切れない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づき、全国の直轄河川を対象として、減災に向けたハード、ソフト対策を一体的、総合的、計画的に進めていくこととされた。

また、平成28年8月以降立て続けに東日本を襲った台風に伴う豪雨災害により、中小河川においても甚大な被害が発生したことを踏まえ、水害から命を守る「水防災意識社会」の再構築に向けた取組をさらに加速させ、全ての地域において取組を推進していく必要があるとされた。

本県でも、平成21年、22年、25年、26年と豪雨による甚大な浸水被害を受けており、県管理河川においても、水防災意識社会の再構築に向けた取組を推進していく必要があることから、減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的、総合的、計画的に推進するため、周南市、下関地方気象台及び山口県からなる「周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会」（以下「本協議会」）を平成29年5月18日に設立した。

その後、水防法の改正により、「都道府県大規模氾濫減災協議会制度」が創設されたことに伴い、本協議会は、平成30年2月23日に水防法に基づく協議会に移行した。

本協議会では、施設では防ぎきれない大規模水害に対し、「逃げ遅れゼロ」を目指すべく、「情報伝達、避難等に関する取組」、「効果的な水防活動に向けた取組」及び「住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組」を3本の柱として、各構成機関が一体的・計画的に取り組む事項について検討を進め、ソフト対策に係る事項を「周南地域の減災に係る取組方針」（以下「取組方針」）として取りまとめたうえ、減災に向けた対策を推進してきた。

また、近年は、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、これまでの「水防災

意識社会」の再構築に向けた取組をさらに一歩進め、流域全体のあらゆる関係者が協働して行う持続可能な治水対策、「流域治水」への転換を推進し、防災・減災が主流となる社会の形成を目指すことが求められている。

本協議会は、引き続き、各構成機関が連携して減災に係る取組を推進し、進捗状況を共有するとともに、必要に応じて取組方針の見直しを行うなどのフォローアップを行い、水防災意識を高めていくこととする。

なお、本取組方針は、本協議会規約第 6 条に基づき作成したものである。

2 本協議会の構成機関及び委員

本協議会は、周南市、下関地方气象台、山口河川国道事務所、山口県で構成（以下「構成機関」という。）し、委員は以下のとおりである。

（委員） 周南市長
国土交通省 中国地方整備局 山口河川国道事務所長
気象庁 福岡管区气象台 下関地方气象台長
山口県 総務部 理事（危機管理担当）
〃 土木建築部 周南土木建築事務所長

3 周南地域の概要と主な課題

周南市は、山口県東南部の瀬戸内海側に位置し、市域の西部には夜市川、中央部に富田川が瀬戸内海周防灘に注いでいる。海岸線の平野部に沿って大規模な工場地帯が形成され、それに接して東西に長い市街地が広がる。市街地の北側にはなだらかな丘陵地が広がり、その背後には山地が広がる。

また、市域の海岸線に沿って国道2号・山陽新幹線・山陽本線・岩徳線が通り、東西の山間部を貫通する形で中国自動車道・国道376号が通り、南北に貫く形で国道315号・国道434号がある。

本地域を流れる河川は、一級河川は、佐波川水系島地川・十郎川・大谷川 及び串川、二級河川は、島田川水系島田川・笠野川・中村川・中村川・石光川・東川及び東繕寺川、錦川水系錦川・渋川・金峰川・長谷川・阿田川・須々万川・田代川及び坂根川、末武川水系末武川、西光寺川水系西光寺川、富田川水系富田川・神代川及び川曲川、夜市川水系夜市川及び的場川、東川水系東川がある。

本地域における課題としては、平野部に人口・資産が集中しており、ひとたび洪水等による氾濫が発生した場合、浸水により甚大な被害が発生する恐れがあり、住民生活に多大な影響をもたらすことが予想される。

4 現在の取組状況及び課題

周南地域における減災対策について、各構成機関で現状を確認し、課題を抽出後、整理を行った。

項目	各機関の現状	各機関の課題	整理番号
洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングの 確認	洪水予報の発表や基準水位に達した旨の情報を発信 防災行動とその実施主体を時系列で整理したタイムラインを作成・運用 避難指示等の発令判断に資する情報の迅速な伝達・共有を図るため、ホットラインを運用	県・市相互の情報共有が必要	1
		タイムラインを 関係機関 で共有するとともに、 時点修正等 を適切に行うことが必要	2
		迅速な情報伝達 が図られるよう、 ホットライン の適切な運用が必要	3
避難計画など住民等の避難体制	想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域図を基に避難所等を指定し、ハザードマップ等により周知 避難所看板の設置 や更新 等を実施 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成等について周知 率先避難・呼びかけ避難の推進について周知	中小河川等における洪水浸水想定区域の 指定 が必要	4
		ハザードマップの 作成 や見直しにあわせ、避難所等の検討や案内看板等による周知が必要	5
		要配慮者利用施設の避難対策の検討 や個別避難計画 の作成が必要	6
		地域住民による自主的な避難体制づくりを推進することが必要	7

住民等への避難情報の伝達体制や方法	<p>防災情報システム、防災メール、ウェブサイト、報道機関等を活用し、避難情報や避難所開設等の各種防災情報を提供</p>	<p>よりわかりやすい情報発信や幅広い周知、情報伝達の迅速化を図るとともに、各種情報伝達手段の認知度向上が必要</p>	8
	<p>氾濫危険水位等に基づく避難指示等を発令する場合は、広報車等により周知</p>	<p>水害リスクが高い区域にある要配慮者利用施設への情報伝達方法の周知等が必要</p>	9
	<p>住民の取るべき行動を5段階の警戒レベルにより提供</p>	<p>自主的な避難行動を判断するための参考となる「警戒レベル相当情報」等の理解の促進が必要</p>	10
河川水位等に係る情報提供	<p>水防警報等の水位情報を提供（防災システム、防災メール等） 簡易型水位計、河川監視カメラを導入</p>	<p>よりわかりやすい情報発信や幅広い周知、情報伝達の迅速化が必要</p>	11
河川巡視	<p>治水上の影響に応じた区間に区分し、定期的な河川巡視を実施 出水後は緊急巡視等を実施</p>	<p>河川巡視や重要水防箇所の情報提供・共有を継続的に実施することが必要</p>	12
水防資機材の整備状況	<p>水防倉庫等に水防資機材を備蓄 水防計画において、水防資機材の保管位置や備蓄量を情報共有</p>	<p>水防活動を円滑に行うため、水防資機材の保管位置や備蓄量の継続的な情報共有が必要</p>	13

リスクの周知	<p>洪水予報河川や水位周知河川において、洪水浸水想定区域図・ハザードマップを作成・公表</p> <p>洪水予報河川・水位周知河川に指定されていない中小河川等において洪水浸水想定区域図・ハザードマップの作成・公表が必要</p>	14
	<p>水害履歴の調査・整理を行い、関係機関で共有</p> <p>よりわかりやすい情報発信や幅広い周知、情報伝達の迅速化が必要</p>	15
	<p>特別警報の呼びかけ方法や、警報・注意報の発表基準等の改善を実施</p> <p>警報・注意報等の防災気象情報の発表方法の改善や、精度の向上について、継続的に検討することが必要</p>	16
	<p>洪水キキクル（危険度分布）の基準等の改善や民間事業者と連携した通知サービスを導入</p> <p>中小河川等における洪水災害発生危険度の高まりを把握するため、洪水キキクル（危険度分布）について、より一層の周知が必要</p>	17
防災意識の啓発活動	<p>防災をテーマとした講演やAR（拡張現実）機器を活用した防災体験学習等を実施</p> <p>水防災意識社会の再構築に向け、さらなる意識啓発に向けた取組が必要</p>	18
	<p>過去の被害を取りまとめた「災害教訓事例集」を改定</p> <p>関係機関や教育機関等が連携した防災学習の一層の充実が必要</p> <p>「やまぐち防災学習館」等のWebサイトで、防災学習に活用できる資料を公開</p>	19

	<p>小中学生を対象に「避難カード」を配布</p> <p>気象台において、自治体職員の防災対応力向上を図るためのワークショップ等を実施</p>		
--	---	--	--

5 減災のための目標

円滑かつ迅速な避難や的確な水防活動等を実施し、各構成機関が連携して達成すべき減災目標は以下のとおりである。

河川整備計画等に位置づけた河川整備を着実に推進し事業効果の早期発現を図りつつ、施設では防ぎきれない大規模水害に対し、各構成機関が連携して県管理河川の河川特性を踏まえたソフト対策に取り組み、「逃げ遅れゼロ」を目指す。

○ 目標達成に向けた3本柱の取組

- 1 情報伝達、避難等に関する取組
- 2 効果的な水防活動に向けた取組
- 3 住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

○ 目標を達成するための取組項目

- 1 情報伝達、避難等に関する取組
 - (1) 洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングの
確認
 - (2) 洪水浸水想定区域の指定、周知と避難対策の強化
 - (3) 住民等への避難情報の伝達体制の強化
- 2 効果的な水防活動に向けた取組
 - (1) 水防資機材の情報共有及び相互支援方法の確認
 - (2) 洪水に対しリスクが高い区間（各河川の重要水防箇所等）の情報共有
- 3 住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組
 - (1) 要配慮者利用施設の管理者に対する説明等
 - (2) 出前講座等を活用した防災意識の啓発
 - (3) 住民等の的確な避難行動を促すための河川防災情報の周知

6 おおむね5年で実施する取組

施設では防ぎきれない大規模水害に対し、「逃げ遅れゼロ」を目的とした各構成機関の取組項目・目標時期については、以下のとおりである。

情報伝達、避難等に関する取組

項目	対応	整理番号への対応	目標年度	取組主体
洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングの 確認	洪水対応や訓練等により課題が見つかった場合等、必要に応じて「タイムライン」を検証、改訂する。 河川の状況や気象情報等を迅速に伝達、共有するための「ホットライン」を適切に運用する。	1, 2, 3	継続	全体
洪水浸水想定区域の指定、周知と避難対策の強化	洪水予報河川・水位周知河川に指定していない中小河川等においても浸水想定区域を指定するとともに、避難所等の見直しを行うなど、避難対策の強化を図る。	4, 5, 14	R3～	県、市
	要配慮者利用施設における避難確保計画や個別避難計画の作成等を促進し、避難の実効性確保に努める。	6	継続	県、市
	自主防災組織の育成や活動の支援等により、地域住民の自主的な避難行動等を促進し、避難体制の強化を図る。	7	継続	県、市

住民等への避難情報の伝達体制の強化	防災メール等の多様な情報伝達手段について普及・啓発等を図る。	8, 9	継続	全体
	住民等の的確な避難行動を促す各種防災情報について、内容をわかりやすく周知し、理解の向上を図る。	8, 10	継続	全体

効果的な水防活動に向けた取組

項目	対応	整理番号への対応	目標年度	取組主体
水防資機材の情報共有及び相互支援方法の確認	水防倉庫の位置の周知や備蓄量等の情報共有により、水防活動の円滑化を図る。	13	継続	県、市
洪水に対しリスクが高い区間(各河川の重要水防箇所等)の情報共有	河川巡視や重要水防箇所情報をあらかじめ共有するとともに、リアルタイムの水位情報の共有により、水防活動の円滑化を図る。	11, 12	継続	県、市

住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

項目	対応	整理番号への対応	目標年度	取組主体
要配慮者利用施設の管理者に対する説明等	管理者への水害リスク情報の周知に努め、水防法改正に伴う義務的な対応について指導する。	6, 9	継続	県、市
出前講座等を活用した防災意識の啓発	関係機関、教育機関と連携し、広報活動の推進や防災学習等の一層の充実を図る。	7, 18, 19	継続	全体

住民等の的確な避難行動を促すための河川防災情報の周知	洪水浸水想定区域図やハザードマップを作成・公表するなど、中小河川等における水害リスク情報の充実化を図る。	4, 14	R3～	県、市
	避難行動のきっかけとなる河川水位情報等の充実化や、防災情報伝達手段の普及・啓発等を図る。	8, 11	継続	全体
	関係機関、報道機関等と連携し、わかりやすく精度の高い情報の発信や伝達の迅速化を図る。	10, 15, 16, 17	継続	全体

7 フォローアップ

原則、本協議会を出水期前に開催することで、取組の進捗状況を確認し、必要に応じて取組方針の見直しや取組内容の改善など、継続的なフォローアップを行うこととする。

第8回

周南地域の県管理河川における 大規模氾濫に関する減災対策協議会

目次

- (1) 規約・流域治水部会設置要綱の改正
- (2) 取組の進捗状況
- (3) 「地域の取組方針」の見直し
- (4) 流域治水の取組

(1) 規約・流域治水部会設置要綱の改正

◆ 流域治水部会設置要綱

別紙 周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会流域治水部会

(新)	(旧)
<p>(部会員)</p> <p>周南市 防災危機管理課 周南市 農林課 周南市 河川港湾課 周南市 都市政策課 周南市 上下水道局企画調整課</p> <p><u>気象庁 福岡管区気象台 下関地方気象台</u></p> <p>国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 山口水源林整備事務所</p> <p>山口県 農林水産部 農村整備課 山口県 農林水産部 森林整備課 山口県 農林水産部 周南農林水産事務所 山口県 土木建築部 都市計画課 山口県 土木建築部 砂防課 山口県 土木建築部 周南土木建築事務所</p> <p>山口県 土木建築部 河川課</p>	<p>(部会員)</p> <p>周南市 防災危機管理課 周南市 農林課 周南市 河川港湾課 周南市 都市政策課 周南市 上下水道局企画調整課</p> <p>国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 山口水源林整備事務所</p> <p>山口県 農林水産部 農村整備課 山口県 農林水産部 森林整備課 山口県 農林水産部 周南農林水産事務所 山口県 土木建築部 都市計画課 山口県 土木建築部 砂防課 山口県 土木建築部 周南土木建築事務所</p> <p>山口県 土木建築部 河川課</p>

※ 下関地方気象台は、県内全ての「流域治水部会」に参画します。

(2)取組の進捗状況

◆「地域の取組方針」の振り返り

減災対策協議会を設置

国土交通省が進める「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、水害リスク情報や減災のための目標を共有し、県管理河川の河川特性を踏まえたソフト対策を一体的かつ計画的に推進するため、市町ごとに減災対策協議会を設置

第2回協議会で、減災に係る「地域の取組方針」を策定

<概ね5年間で達成すべき減災目標>

施設では防ぎきれない大規模水害に対し、関係機関が連携して、「逃げ遅れ
ゼロ」を目指す。

関係機関が連携して 対策を推進

概ね5年が経過

- 協議会で実施した主な取組について、進捗状況を確認・共有

資料⑤

(3)「地域の取組方針」の見直し

◆ 見直しの方針

水防災に係る近年の動向

- 気候変動の影響により全国各地で水災害が激甚化・頻発化
- 「水防災意識社会」の再構築に向けた取組をさらに一歩進め、流域全体のあらゆる関係者が協働して行う持続可能な治水対策、「流域治水」への転換を推進
- 水害リスク情報の空白域においても浸水被害が発生
- 新技術やDX（デジタル・トランスフォーメーション）の取組の加速化 など

「地域の取組方針」を見直し

資料⑥

（見直しの方針）

- 施設では防ぎきれない大規模水害に対して「逃げ遅れゼロ」を目指す
- 関係機関が一体的・計画的に実施してきた3本柱の取組を継承し、各機関の連携強化と取組の充実化により、災害への備えを継続する

1. 情報伝達、避難等に関する取組
2. 効果的な水防活動に向けた取組
3. 住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

(3)「地域の取組方針」の見直し

◆ 今後の取組にあたってのポイント

➤ 施設では防ぎきれない大規模水害に対し、以下のような点に着眼して、各構成機関が連携して対策に取り組み、「逃げ遅れゼロ」を目指す。

- タイムラインやホットライン、ハザードマップなど、これまでの取組成果を活かして、防災減災に役立てるとともに、さらなる改善、充実化を検討
- 防災学習の推進や適時・的確な情報発信など、今後も、継続的に実施する必要がある取組は、引き続き、着実に推進
- あらゆる関係者が協働して「流域治水」を推進するため、流域治水部会での情報共有を継続し、関係部局間の連携体制の構築や広域的な視点からの対策を検討
- 洪水浸水想定区域の指定対象河川の拡大による水害リスク情報の空白地帯の解消など、水防法の改正に適切に対応
- 防災・減災のための新技術の動向を注視し、既存の取組のさらなる改善、充実化を検討
- 予測精度のさらなる向上や、気象監視・予測体制の強化など、引き続き、着実に推進

など

(3)「地域の取組方針」の見直し

例) 住民等の的確な避難行動を促す河川防災情報の周知

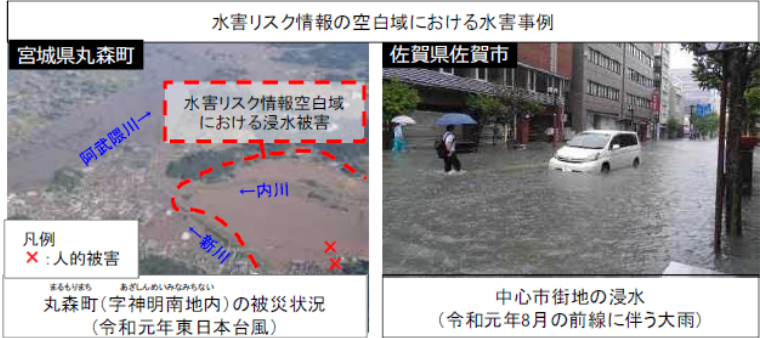
➤ 水防法の改正に伴い、全ての県管理河川を対象に洪水浸水想定区域図等の作成を推進

- 近年、中小河川等の水害リスク情報の提供を行っていない水害リスク情報の空白域で多くの浸水被害が発生。
- 水害リスク情報の空白域を解消するため、水防法を改正し、浸水想定区域図及びハザードマップの作成・公表の対象を全ての一級・二級河川や下水道※に拡大。
- 洪水浸水想定区域図は令和7年度までに完了を目指し、雨水出水浸水想定区域図は令和7年度までに8割完了を目指す。

※全ての一級・二級河川や下水道とは、住宅等の防護対象のある全ての一級・二級河川や浸水対策を目的として整備された下水道のこと。

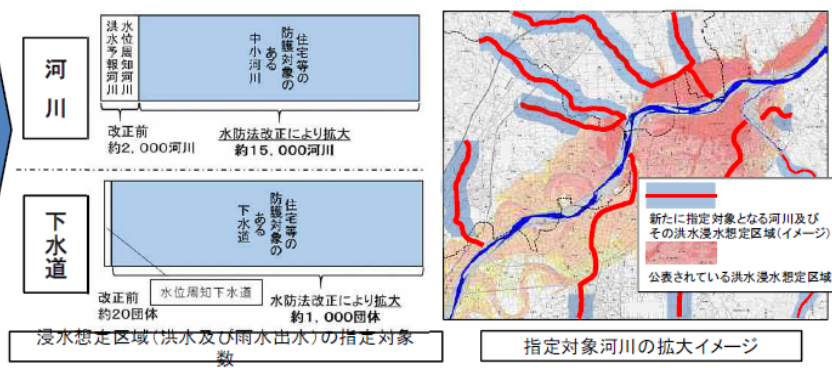
■水害リスク情報の空白域において浸水被害が多発

・令和元年東日本台風では、堤防が決壊した71河川のうち43河川(約6割)、内水氾濫による浸水被害が発生した135市区町村のうち126市区町村(約9割)が水害リスク情報の空白域。



■水防法を改正し、浸水想定区域の指定対象を拡大

・河川(洪水浸水想定区域)では約15,000河川、下水道(雨水出水浸水想定区域)では約1,000団体が新たに指定対象として追加。



	浸水想定区域図	ハザードマップ
河川 (洪水)	令和7年度までに完了※	令和8年度までに完了目標
下水道 (雨水出水)	令和7年度までに約800団体完了※	浸水想定区域図作成後速やかに作成

※ 第5次社会資本整備重点計画KPIに位置付け

(4)流域治水の取組

◆ 流域治水プロジェクトのフォローアップ

○令和3年度

- 令和3年6月15日付で、**「流域治水部会」を設置し**、令和4年2月28日に、「流域治水プロジェクト」を公表

流域治水プロジェクト

河川管理者等がこれまで実施してきたハード・ソフト対策に加えて、河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、水害を軽減させる取組(流域治水)の具体的な対策をとりまとめたもの。

○策定趣旨

県、市町等が連携し、流域全体で重点的に実施すべき治水対策の全体像をとりまとめ、「流域治水」を計画的に推進するため

○プロジェクトの構成

流域全体の様々な対策を「見える化」した【位置図】と、実施主体や目標達成に向けた工程を示す【ロードマップ】で構成

○目標

流域全体のあらゆる関係者の協働により、ハード・ソフト一体となった事前防災対策を計画的に推進し、流域における浸水被害の軽減を図る

＜目標期間＞

短期…概ね5年
中期…概ね10～15年
中長期…概ね20～30年

○令和4年度

- 「流域治水部会」を開催し、流域治水プロジェクトのフォローアップを実施
- 関係機関が実施する対策の進捗状況を確認し、流域治水プロジェクトを時点更新

(4)流域治水の取組

◆ 流域治水プロジェクトの時点更新

二級水系 流域治水プロジェクト **錦川水系流域治水プロジェクト【位置図】** ver.2 (R5.3月) **山口県**

○ 令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、近年、全国各地で水災害が激甚化・頻発化する中、錦川水系においても、流域全体でハード・ソフト一体となった事前防災対策を進める必要があることから、あらゆる関係者の協働により、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ・河川改修
 - ・河川浚渫
 - ・ダム建設
 - ・既存ダムの有効活用
 - ・海岸保全施設の老朽化対策
 - ・砂防堰堤の整備
 - ・地すべり対策の実施
 - ・下水道施設の整備
 - ・水田の貯留機能向上
 - ・森林の整備・保全及び治山対策

- 被害対象を減少させるための対策
- ・水害リスクを考慮したまちづくり
 - ・防災まちづくりの検討に必要な情報の整備

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- ・浸水想定区域図やハザードマップ等の作成・周知
 - ・河川監視体制の強化
 - ・防災メール等の多様な手段による情報の発信・伝達
 - ・出前講座等を活用した防災教育の推進
 - ・防災士等の人材の育成・確保
 - ・自主防災組織の育成や活動の支援
 - ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成や避難訓練の促進



作成：岩国・周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会 流域治水部会
 ※地理院地図に浸水想定範囲を追記して掲載
 ※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

(4) 流域治水の取組

二級水系 流域治水プロジェクト

錦川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

ver.2 (R5.3月)

山口県

○ 錦川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、流域のあらゆる関係者が一体となって、以下の工程で「流域治水」を推進する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修	山口県	築堤工、護岸工、河道掘削工等		
		周南市	向陽橋架替	河道拡幅	黒木川
	河川浚渫	山口県、岩国市、周南市	緊急浚渫推進事業等	継続的な浚渫の実施	
	ダム建設	山口県	ダムの建設(平瀬ダム)		
	既存ダムの有効活用	山口県	ダムの事前放流等の実施		
	海岸保全施設の老朽化対策	山口県	老朽化対策	継続的に施設の機能を保全	
	砂防堰堤の整備	山口県	上桜木川、名坪深流、杭名西川、杭名川	継続的な砂防堰堤の整備	
	地すべり対策の実施	山口県	須川地区		
	下水道施設の整備	岩国市	旭町ポンプ場の整備		
	水田の貯留機能向上	山口県、岩国市、周南市	ほ場整備、田んぼダムの検討等		
森林の整備・保全及び治山対策	山口森林管理事務所 森林整備センター、山口県、周南市	森林の整備・保全、治山対策			
被害対象を減少させるための対策	水害リスクを考慮したまちづくり	岩国市、周南市	R5改定予定(周南市) 立地適正化計画の運用・改定		
	防災まちづくりの検討に必要な情報の整備	山口県	多段階な浸水リスク情報 R6改定予定(岩国市)		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	浸水想定区域図やハザードマップ等の作成・周知	山口県、岩国市、周南市	作成・周知・利活用		
	河川監視体制の強化	山口県、岩国市、周南市	R5山口県土木防災情報システムのリニューアル システム更新 簡易型水位計・河川監視カメラ等の整備・利活用		
	防災メール等の多様な手段による情報の発信・伝達	山口県、岩国市、周南市	機能強化・普及・啓発		
	出前講座等を活用した防災教育の推進	山口県、岩国市、周南市	防災教育の充実・強化		
	防災士等の人材の育成・確保	岩国市	防災士資格取得補助金制度の運用		
	自主防災組織の育成や活動の支援	山口県、岩国市、周南市	率先避難体制の整備・地域防災力の向上		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成や避難訓練の促進	山口県、岩国市、周南市	避難の実効性確保		



作成：岩国・周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会 流域治水部会

※工程については、今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

(4)流域治水の取組

二級水系
流域治水プロジェクト

島田川水系流域治水プロジェクト【位置図】

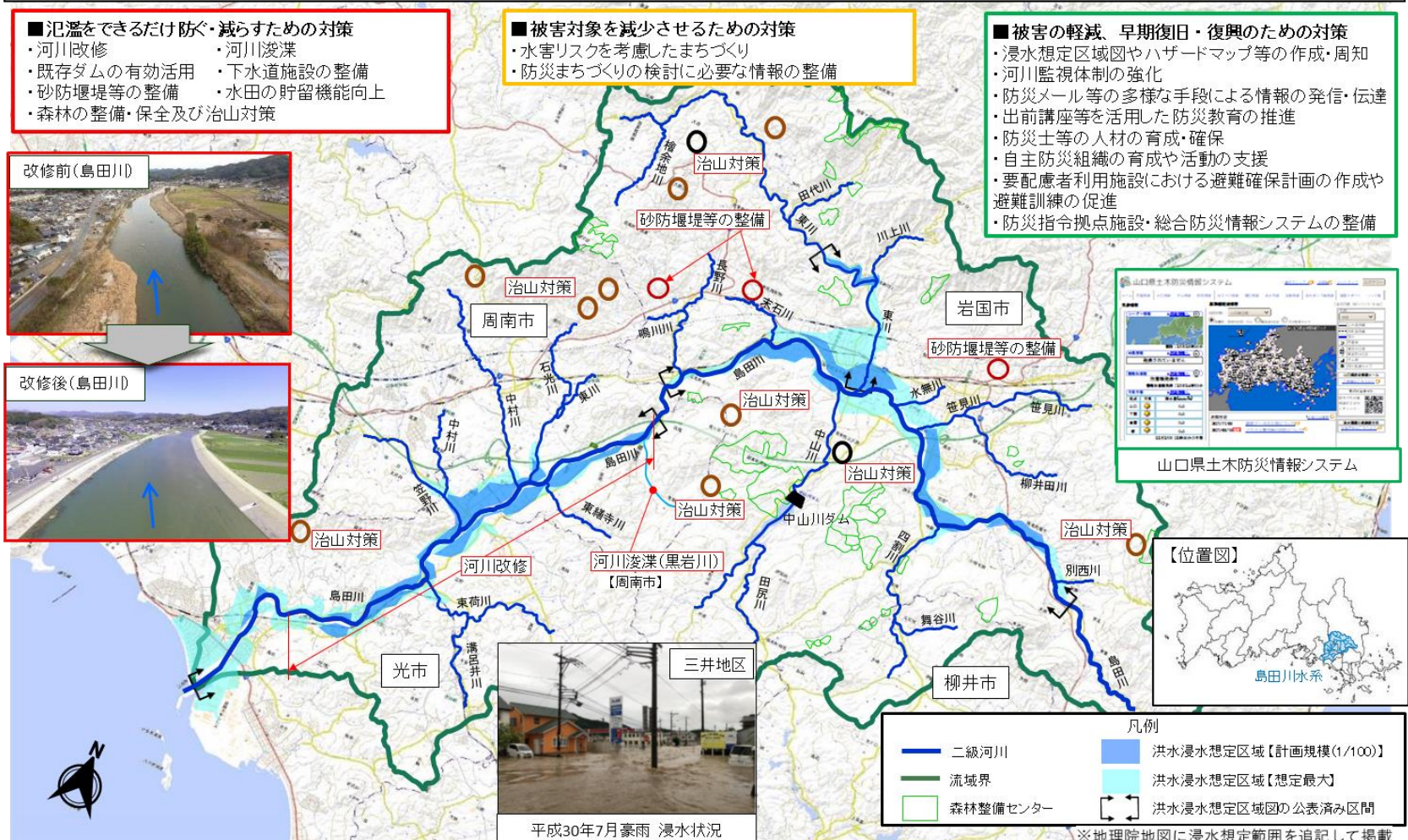
山口県 ver.2 (R5.3月) 山口県

○ 令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、近年、全国各地で水災害が激甚化・頻発化する中、島田川水系においても、流域全体でハード・ソフト一体となった事前防災対策を進める必要があることから、あらゆる関係者の協働により、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- 河川改修
 - 河川浚渫
 - 既存ダムの有効活用
 - 下水道施設の整備
 - 砂防堰堤等の整備
 - 水田の貯留機能向上
 - 森林の整備・保全及び治山対策

- 被害対象を減少させるための対策
- 水害リスクを考慮したまちづくり
 - 防災まちづくりの検討に必要な情報の整備

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- 浸水想定区域図やハザードマップ等の作成・周知
 - 河川監視体制の強化
 - 防災メール等の多様な手段による情報の発信・伝達
 - 出前講座等を活用した防災教育の推進
 - 防災士等の人材の育成・確保
 - 自主防災組織の育成や活動の支援
 - 要配慮者利用施設における避難確保計画の作成や避難訓練の促進
 - 防災指令拠点施設・総合防災情報システムの整備



凡例

二級河川	洪水浸水想定区域【計画規模(1/100)】
流域界	洪水浸水想定区域【想定最大】
森林整備センター	洪水浸水想定区域図の公表済み区間



作成：岩国・柳井・周南・光地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会 流域治水部会

※地理院地図に浸水想定範囲を追記して掲載
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

(4) 流域治水の取組

二級水系
流域治水プロジェクト

島田川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

山口県

ver.2 (R5.3月)

○ 島田川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、流域のあらゆる関係者が一体となって、以下の工程で「流域治水」を推進する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修	山口県	護岸工、河道掘削工等		
	河川浚渫	山口県、岩国市、柳井市、周南市、光市	緊急浚渫推進事業等	継続的な浚渫の実施	
	既存ダムの有効活用	山口県	ダムの事前放流等の実施		
	下水道施設の整備	周南市	排水区等の整備		
	砂防堰堤等の整備	山口県	平原川、須通東川、新造谷川	継続的な砂防堰堤の整備	
	水田の貯留機能向上	山口県、岩国市、柳井市、周南市、光市	ほ場整備、田んぼダムの検討等		
	森林の整備・保全及び治山対策	森林整備センター、山口県、岩国市、柳井市、周南市、光市	森林の整備・保全、治山対策		
被害対象を減少させるための対策	水害リスクを考慮したまちづくり	岩国市、周南市、光市	R5改定予定(周南市) 立地適正化計画の運用・改定		
	防災まちづくりの検討に必要な情報の整備	山口県	多段階な浸水リスク情報	R6改定予定(岩国市、光市)	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	浸水想定区域図やハザードマップ等の作成・周知	山口県、岩国市、柳井市、周南市、光市	作成・周知・利活用		
	河川監視体制の強化	山口県、岩国市、柳井市、周南市、光市	R5山口県土木防災情報システムのリニューアル システム更新	簡易型水位計・河川監視カメラ等の整備・利活用	
	防災メール等の多様な手段による情報の発信・伝達	山口県、岩国市、柳井市、周南市、光市	機能強化・普及・啓発		
	出前講座等を活用した防災教育の推進	山口県、岩国市、柳井市、周南市、光市	防災教育の充実・強化		
	防災士等の人材の育成・確保	岩国市、柳井市、光市	防災士資格取得補助金制度の運用		
	自主防災組織の育成や活動の支援	山口県、岩国市、柳井市、周南市、光市	率先避難体制の整備・地域防災力の向上		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成や避難訓練の促進	山口県、岩国市、柳井市、周南市、光市	避難の実効性確保		
	防災指令拠点施設・総合防災情報システムの整備	光市	R5整備	運用	

気候変動を踏まえたさらなる対策を推進

(4) 流域治水の取組

二級水系
流域治水プロジェクト

西光寺川水系流域治水プロジェクト【位置図】

ver.2 (R5.3月)

山口県

○ 令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、近年、全国各地で水災害が激甚化・頻発化する中、西光寺川水系においても、流域全体でハード・ソフト一体となった事前防災対策を進める必要があることから、あらゆる関係者の協働により、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河川改修
- ・河川浚渫
- ・下水道施設の整備
- ・森林の整備・保全及び治山対策

■ 被害対象を減少させるための対策

- ・水害リスクを考慮したまちづくり
- ・防災まちづくりの検討に必要な情報の整備

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・浸水想定区域図やハザードマップ等の作成・周知
- ・河川監視体制の強化
- ・防災メール等の多様な手段による情報の発信・伝達
- ・出前講座等を活用した防災教育の推進
- ・自主防災組織の育成や活動の支援
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成や避難訓練の促進



(4) 流域治水の取組

二級水系
流域治水プロジェクト

西光寺川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

山口県

ver.2 (R5.3月)

○ 西光寺川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、流域のあらゆる関係者が一体となって、以下の工程で「流域治水」を推進する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修	山口県	護岸工、河道掘削工、橋梁工等		
		周南市	隅田川河川改修		
	河川浚渫	山口県、周南市	河川浚渫		
	下水道施設の整備	周南市	排水区等の整備		
被害対象を減少させるための対策	森林の整備・保全及び治山対策	山口県、周南市	森林の整備・保全、治山対策		
	水害リスクを考慮したまちづくり	周南市	R5改定予定 立地適正化計画の運用・改定		
	防災まちづくりの検討に必要な情報の整備	山口県	多段階な浸水リスク情報		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	浸水想定区域図やハザードマップ等の作成・周知	山口県、周南市	作成・周知・利活用		
	河川監視体制の強化	山口県、周南市	R5山口県土木防災情報システムのリニューアル システム更新	簡易型水位計・河川監視カメラ等の整備・利活用	
	防災メール等の多様な手段による情報の発信・伝達	山口県、周南市	機能強化・普及・啓発		
	出前講座等を活用した防災教育の推進	山口県、周南市	防災教育の充実・強化		
	自主防災組織の育成や活動の支援	山口県、周南市	率先避難体制の整備・地域防災力の向上		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成や避難訓練の促進	山口県、周南市	避難の実効性確保		

気候変動を踏まえたさらなる対策を推進

(4) 流域治水の取組

二級水系
流域治水プロジェクト

夜市川水系流域治水プロジェクト【位置図】

山口県 ver.2(R5.3月)

○ 令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、近年、全国各地で水災害が激甚化・頻発化する中、夜市川水系においても、流域全体でハード・ソフト一体となった事前防災対策を進める必要があることから、あらゆる関係者の協働により、以下の取り組みを実施していくことで、流域における浸水被害の軽減を図る。

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
- ・河川改修
 - ・河川浚渫
 - ・下水道施設の整備・耐水化
 - ・水田の貯留機能向上
 - ・森林の整備・保全及び治山対策

- 被害対象を減少させるための対策
- ・水害リスクを考慮したまちづくり
 - ・防災まちづくりの検討に必要な情報の整備

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
- ・浸水想定区域図やハザードマップ等の作成・周知
 - ・河川監視体制の強化
 - ・防災メール等の多様な手段による情報の発信・伝達
 - ・出前講座等を活用した防災教育の推進
 - ・自主防災組織の育成や活動の支援
 - ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成や避難訓練の促進



作成：周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会 流域治水部会

※地理院地図に浸水想定範囲を追記して掲載
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

(4) 流域治水の取組

二級水系
流域治水プロジェクト

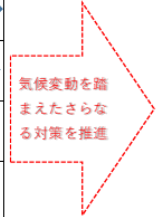
夜市川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

ver.2 (R5.3月)

山口県

○ 夜市川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、流域のあらゆる関係者が一体となって、以下の工程で「流域治水」を推進する。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河川改修	山口県	護岸工、河道掘削工等		
	河川浚渫	山口県、周南市	緊急浚渫 推進事業等	継続的な浚渫の実施	
	下水道施設の整備・耐水化	周南市	排水区等の整備		
		周南市	ポンプ場耐水化	新地雨水ポンプ場	
	水田の貯留機能向上	山口県、周南市	田んぼダムの検討等		
	森林の整備・保全及び治山対策	森林整備センター 山口県、周南市	森林の整備・保全、治山対策		
被害対象を減少させるための対策	水害リスクを考慮したまちづくり	周南市	R5改定予定 立地適正化計画の運用・改定		
	防災まちづくりの検討に必要な情報の整備	山口県	多段階な浸水 リスク情報		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	浸水想定区域図やハザードマップ等の作成・周知	山口県、周南市	作成・周知・利活用		
	河川監視体制の強化	山口県、周南市	R5山口県土木防災情報システムのリニューアル システム 更新	簡易型水位計・河川監視カメラ等の整備・利活用	
	防災メール等の多様な手段による情報の発信・伝達	山口県、周南市	機能強化・普及・啓発		
	出前講座等を活用した防災教育の推進	山口県、周南市	防災教育の充実・強化		
	自主防災組織の育成や活動の支援	山口県、周南市	率先避難体制の整備・地域防災力の向上		
	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成や避難訓練の促進	山口県、周南市	避難の実効性確保		



作成：周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会 流域治水部会

※工程については、今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

周南地域の減災に係る取組方針

減災に係る取組の進捗状況

取組方針の概要

◆ 5年間で達成すべき目標

河川整備計画等に位置づけた河川整備を着実に推進し事業効果の早期発現を図りつつ、施設では防ぎきれない大規模水害に対し、周南市、下関地方気象台及び山口県が連携して県管理河川の河川特性を踏まえたソフト対策に取り組み、「逃げ遅れゼロ」を目指す。

※ 大規模水害……想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水氾濫による被害

※ 逃げ遅れ……立ち退き避難が必要なエリアからの避難が遅れ孤立した状態

◆ 上記目標の達成に向けた3本柱の取組

1. 情報伝達、避難等に関する取組
2. 効果的な水防活動に向けた取組
3. 住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

取組方針の概要

①情報伝達、避難等に関する取組

項目	対応	具体的な対応
洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングの設定	タイムラインの作成により、防災活動の可視化・円滑化を図る。	<ul style="list-style-type: none">■ 水害対応タイムラインの作成・運用■ 決壊・漏水等の通報体制の明確化
避難勧告等(※)の発令判断を担う責任者(市長、危機管理監等)と土木建築事務所長が直接情報を伝達、共有する体制(ホットライン)の構築	ホットラインの本格運用により、情報伝達、情報共有の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none">■ ホットラインによる情報伝達・共有体制の強化
想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域の指定、周知と避難対策の強化	想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域・ハザードマップの見直し・公表を行うとともに、避難対策の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none">■ 洪水浸水想定区域図の作成■ ハザードマップの作成、周知、利活用■ 避難対策の強化・見直し■ 住民等の的確な避難行動を促すための情報の幅広い周知、伝達の迅速化
水位周知河川に指定していない中小河川における水害リスク情報(過去の水害と流域内雨量の整理等)の充実	過去の水害履歴等の把握に努めるとともに、把握した水害リスク情報の周知を行う。	<ul style="list-style-type: none">■ 過去の水害履歴等の調査・整理■ 簡易型水位計による水害リスク情報の提供

※令和3年5月20日から、避難勧告は廃止され、避難指示に一本化

取組方針の概要

②効果的な水防活動に向けた取組

項目	対応	具体的な対応
水防資機材の情報共有及び相互支援方法の確認	水防倉庫の位置の周知や備蓄量等の情報共有により、水防活動の円滑化を図る。	<ul style="list-style-type: none">■ 水防倉庫の位置や資機材の備蓄量等の確認■ 水防に係る広報活動■ 山口県総合防災訓練による連携強化
洪水に対しリスクが高い区間(各河川の重要水防箇所等)の情報共有	河川巡視や重要水防箇所の情報共有により、水防活動の円滑化を図る。	<ul style="list-style-type: none">■ 重点監視箇所等のリスク情報の共有■ 河川巡視情報の共有
庁舎等の浸水に備えた業務継続計画の検討	庁舎等の浸水に備えた業務継続計画を検討する。	<ul style="list-style-type: none">■ 業務継続計画(BCP)の確認、検討■ 防災拠点となる施設の整備

取組方針の概要

③住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

項目	対応	具体的な対応
要配慮者利用施設の管理者に対する説明等	管理者への水害リスク情報の周知に努め、水防法改正に伴う義務的な対応について支援する。	■ 避難確保計画の策定等の対応について助言・指導・支援
出前講座等を活用した河川防災情報の周知	関係機関、教育機関と連携し、広報活動の推進を図る。	■ 防災意識の啓発に向けた広報活動の推進 ■ 出前講座や防災学習の推進
住民等の的確な避難行動を促すための河川防災情報の周知方法の検討	関係機関、報道機関等と連携し、わかりやすく精度の高い情報の発信や伝達の迅速化を図る。	■ 河川監視カメラによる河川水位情報の提供 ■ よりわかりやすい情報発信方法の検討や幅広い周知 ■ 防災気象情報の発表方法の改善や精度向上

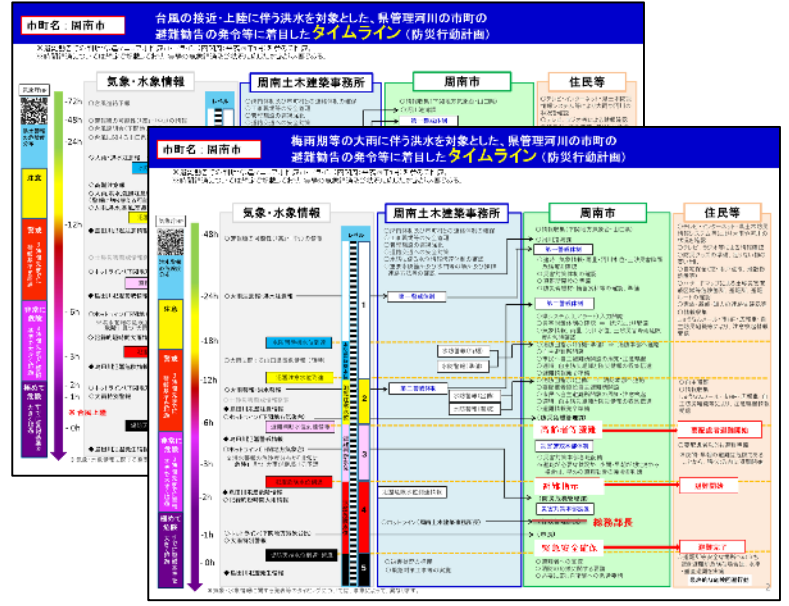
①情報伝達、避難等に関する取組

■洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングの設定

- ▶ タイムラインの作成により、防災活動の可視化・円滑化を図った。
- ▶ また、県・市相互の情報共有体制を確認するとともに、よりわかりやすい情報発信や幅広い周知、情報伝達の迅速化に資する取組を行った。

水害対応タイムラインの作成・運用

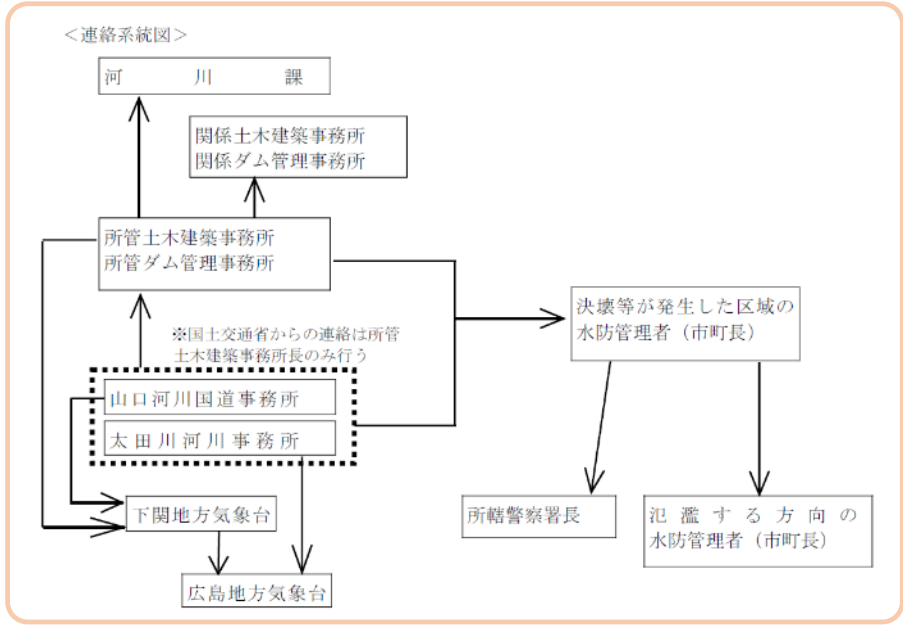
「いつ」、「誰が」、「何をするか」に着目して、防災行動と実施主体を時系列で整理したタイムラインを関係機関が連携して作成しました。



▲タイムラインの事例

決壊・漏水等の通報体制の明確化

平成30年7月豪雨を受けて情報伝達体制の見直しを行い、地域防災計画にて、関係者に対する情報伝達の規定を追加しました。



▲山口県地域防災計画第3編第13章水防計画

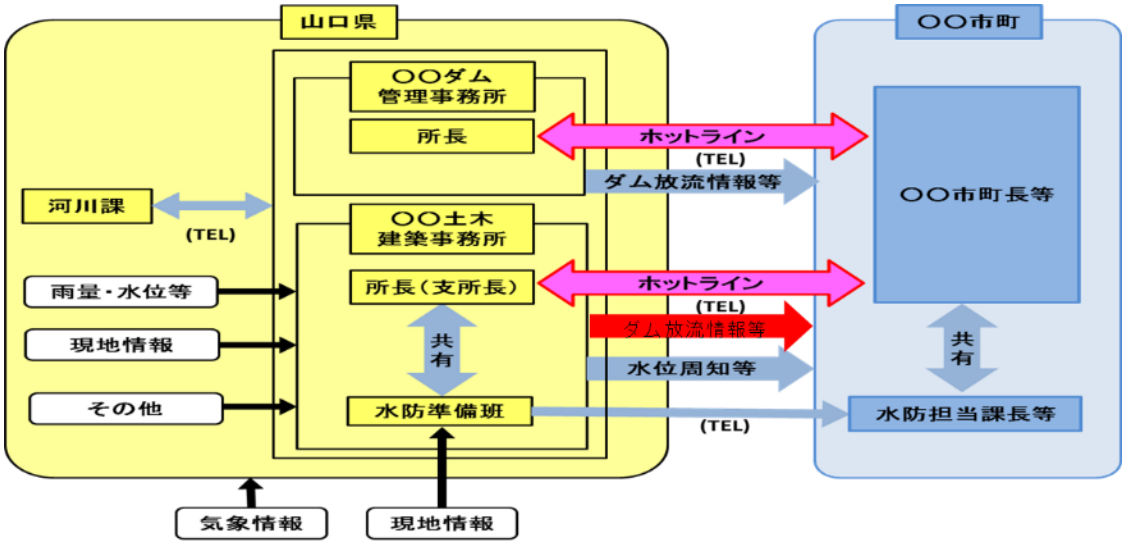
①情報伝達、避難等に関する取組

■避難指示等の発令判断を担う責任者と土木建築事務所長が
直接情報を伝達、共有する体制の構築

➤ 河川に関する情報を適時・適切に情報提供するため、ホットラインの本格運用を開始し、情報伝達、情報共有の強化を図った。

ホットラインによる情報伝達・共有体制の強化

避難指示等が発令されるような緊急時に、河川管理者、ダム管理者及び市町長等とが直接、情報を伝達・共有するため、平成30年からホットラインの本格運用を開始しました。



県⇒市町	主な伝達事項
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 氾濫危険水位(洪水特別警戒水位)に達したこと ※原則、1洪水1伝達(初回の水位到達時に伝達) ・ 避難指示等の発令の判断に直結するような緊急又は重要な情報 ・ ダム(ゲートレスダム含む)の異常洪水時防災操作への移行(予告、移行時)

▲ホットラインの仕組み

①情報伝達、避難等に関する取組

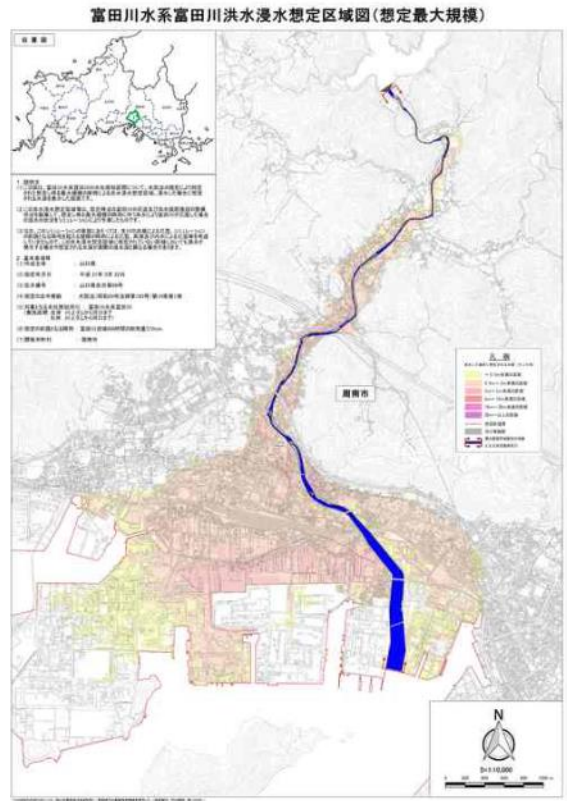
■想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域の指定、周知と避難対策の強化

- 想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域・ハザードマップへの見直し・公表を行った。
- また、避難体制や情報伝達体制の整備による避難対策の強化を図った。

洪水浸水想定区域図の作成

洪水予報河川及び水位周知河川について、想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域図の作成を行いました。

水系名	河川名	想定最大規模公表状況	想定最大規模公表年月日
錦川水系	錦川	公表済み	平成31年1月18日
島田川水系	島田川	公表済み	平成31年1月18日
末武川水系	末武川	公表済み	令和2年3月24日
富田川水系	富田川	公表済み	平成31年3月22日
夜市川水系	夜市川	公表済み	令和3年3月26日
西光寺川水系	西光寺川	公表済み	令和2年3月24日
佐波川水系	島地川	公表済み	平成31年3月22日



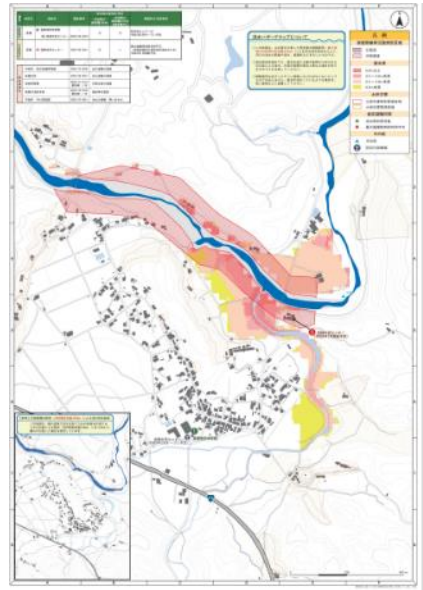
▲浸水想定区域図の例

①情報伝達、避難等に関する取組

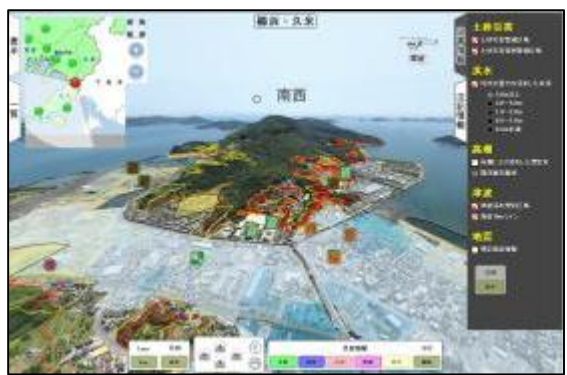
ハザードマップの作成、周知、利活用

想定最大規模の洪水に対して避難場所や避難経路等の検討を行い、ハザードマップにより住民等に周知しています。

河川名	ハザードマップ改訂状況
錦川	令和2年3月
島田川	令和2年3月
末武川	令和3年3月
富田川	令和2年3月
夜市川	令和3年12月
西光寺川	令和3年3月
島地川	令和2年3月



▲洪水ハザードマップ(例)



▲Web版ハザードマップ

ハザードマップとは?

「ハザードマップ」とは?

ハザードマップとは、自然災害による被害を予測し、被害の範囲および被害程度、避難場所などの情報を地図上に表したものです。

あらかじめ

- ・予測される被害状況の確認!
- ・避難場所の確認!
- ・避難経路の確認!

をしておきましょう。

周南市では災害ごとにハザードマップを作成しています

「洪水」・「土砂災害」・「地震」・「津波」・「高潮」

ハザードマップ入手・確認方法

直接受け取る

ハザードマップは、周南市役所本庁舎4階 防災危機管理課 または各総合支所 地域政策課・各支所で受け取ることができます。

お問い合わせ ☎0834-22-8208

パソコン・スマホ・タブレットで確認する

「Web版ハザードマップ」
 最新実況をバシラマ化した画面に、各災害における危険箇所等の災害関連情報を簡単に確認することができます。

「PDF版ハザードマップ」
 周南市のホームページにて、PDF版のハザードマップを公開しています。ご自宅のプリンタをお持ちであれば、あらかじめ印刷をしておいて、災害に備えておきましょう。

Web版ハザードマップ
[周南市ハザードマップ](#) (検索)

地域ぐるみで防災対策を

大災害が発生したとき、交通網の寸断などにより、防災機関が十分に対応できないおそれがあります。そんなときに頼りになるのが「地域ぐるみの協力体制」です。日頃から地域の防災活動に積極的に参加することが、自分の命や家を守ることにつながります。

自主防災組織とは

「自分たちの地域は自分たちで守る」

「自治」の精神に基づき、地域が主体的に防災活動をする組織です。災害時はもちろん、災害後の避難所の運営や、その後の復旧活動にも大きな力を発揮します。

自主防災組織の役割

平常時 災害に備えるための活動をします。	災害時 人命を守り、被害の拡大を防ぐために行動します。
防災知識の普及・啓発 防災訓練などを通じて、正しい防災知識を住民に伝える。	情報の収集・伝達 市と連絡をとり合い、情報を住民に伝達する。
地域内の安全点検 地域内の危険箇所や危険物を洗い出し、改善する。	避難訓練 住民を避難所など安全な場所に誘導する。
防災資機材の整備・点検 発電機や非常食、テントなどを整備・点検を行う。	救出・救助 負傷者などを救出し、応急手当、救護所や病院に運ぶ。
防災訓練 いざというときのために、地域一丸となって訓練をする。	避難所の運営 避難所で食料・寝具の配布、情報伝達などをとする。

▲周南市防災ガイドブック「しゅうなん防災」

①情報伝達、避難等に関する取組

避難対策の強化・見直し

ハザードマップの作成や法改正にあわせて、避難所等の見直しや周知方法の検討を行ったほか、避難指示等の発令基準の見直しや避難体制の強化を図っています。

○ 率先避難・呼びかけ避難体制づくり

地域の災害リスクを知り、地域の状況にあった方法で、危険が迫る前に住民どうしが呼びかけあって避難する体制づくりを推進しています



▲動画(YouTube)による紹介

【光市新宮地区】令和2年7月6日からの大雨における呼びかけ避難

- 平成30年7月豪雨で浸水被害を受けた光市新宮地区では、令和元年度に**率先避難・呼びかけ避難体制（連絡網）**を整備した。その後、**避難訓練**を行うなど、「逃げ遅れゼロ」に向けた**積極的な取組**を進めている。
- 令和2年7月の大雨**の際には、警戒レベル3の発令後、昨年度整備した体制（連絡網）に基づき、**避難の呼びかけが行われ、多くの方が早期に避難所、知人宅、親戚宅、ホテル等に分散避難**を行った。

① 平成30年7月豪雨

- 7/5から7/8にかけて激しい雨が降り、8日未明に農田川が氾濫
- 床上浸水・床下浸水など、大きな被害が発生

② 避難体制整備

- 6/7 役員打ち合わせ
- 7/17 住民説明会
- 地域の災害リスクの確認
- 避難体制づくり（グループ、リーダー）
- 10/11 体制整備完了
- 12/18 避難訓練実施

③ 避難訓練の実施

- 声掛け
- 避難
- 避難所へ受付
- 避難所へ避難
- 訓練を通じ、実効性の高い体制へ

④ 令和2年7月の大雨

7月6日からの大雨の際には、昨年度整備した避難体制に基づき、呼びかけ避難が行われた

事前の準備	大雨・警戒レベル3	呼びかけ避難	安全な場所へ避難
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、分散避難について検討 	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨前線に伴う大雨により、大雨・洪水警報が発令 市が警戒レベル3を発令 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーから、連絡網に基づき、避難を呼びかけ 早期避難を開始 	<ul style="list-style-type: none"> 避難所、知人宅、親戚宅など、安全な場所に分散避難 避難者はマスクや体温計を持参

【自治会長の声】

- この地区は平成30年7月豪雨で、多くの被害が発生しました。
- 危険だと感じたら、早めに避難することが大切です。
- このため、災害リスクの確認や率先避難・呼びかけ避難体制づくりを進めてきました。
- 避難体制整備や避難訓練など、事前に備えておくことで、今回の大雨でも早期避難ができました。
- 「逃げ遅れゼロ」に向け、近隣の地域で同様の取組を進めています。

○ 女性の視点からの防災リーフレット

避難所の設置、運営において、プライバシーの配慮や防犯などに「女性の視点」を活かすため、防災リーフレット「女性の視点からのしゅうなん防災」を作成しました



出典：山口県防災危機管理課HP

▲大雨の際の呼びかけ避難の事例

①情報伝達、避難等に関する取組

○ 避難訓練の実施

洪水時等における円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、避難訓練を実施しています。



▲避難訓練の様子

○ 避難所となる施設の整備や機能強化

避難所運営訓練、備品の整備、新型コロナウイルス感染症に対応した避難所の運営などを実施し、避難所機能の強化を図りました。



▲避難所運営訓練の様子

○ マイ・タイムラインの普及促進

国土交通省が取り組んでいる、住民等が自ら避難について考え、行動するためのツールとなる「マイ・タイムライン」や「デジタル・マイ・タイムライン」について、国土交通省山口河川国道事務所から県や各市町の防災担当者へ情報提供を行いました。

①情報伝達、避難等に関する取組

住民等の的確な避難行動を促すための情報の幅広い周知、伝達の迅速化

防災メールやSNS等の多様な手段により、情報発信や伝達体制の強化を図っています。

○ 防災ラジオによる防災情報の提供



○ チラシ等の配布やポスター掲示



○ SNSによる情報発信



○ 防災メールの登録促進



①情報伝達、避難等に関する取組

■水位周知河川に指定していない中小河川における水害リスク情報の充実

- ▶ 水害リスクを適切に把握するため、過去の水害履歴等の調査・整理を行った。
- ▶ また、洪水予報河川や水位周知河川以外の中小河川に簡易型水位計を導入し、水位情報の充実化を図った。

過去の水害履歴等の調査・整理

水位周知河川以外の河川等の氾濫や高潮による浸水リスクなどを適切に把握するため、過去の水害履歴等の調査・整理を行いました。

○ 災害教訓事例集の作成

過去に起きた災害の貴重な体験と教訓等から多くを学び、日頃から防災意識をもって災害に備えていただくため、「災害教訓事例集 ～後世に災害を語り継ぐ～」を作成しました。



1-13 平成22年7月15日大雨 (平成22(2010)年7月10日～20日)

■ 7月10日九州南部に降っていた梅雨前線が、11日にかけて北上し、7月12日から15日にかけて大津波並みの山雨(100mm)が降った。低気圧を中心に局地的な豪雨となった。
■ 15日 日暮里から創にかけて、下関市や美祿町を中心に1時間降水量が50mm以上の雨が降った。下関市豊田では15日08時28分に、77.0mmの1時間降水量を観測した。
■ 7月19日から20日にかけての総降水量が、美祿町美祿で596.3mm、美祿町教訓で518.6mm、下関市豊田で373.0mmを観測し、7月の半年の総降水量の1.8倍を超える大雨となった。
 総降水量(mm) 396.3(美祿町) | 518.6(教訓) | 373.0(豊田)

被災地域	美祿町、中野
被害の規模	1(住家被害・半壊)棟、半壊5棟、一部破損2棟、路上流失の被害、地下浸水674棟 1(その他被害)区画22ヶ所、河川12ヶ所、がけ崩れ4ヶ所 など ＜被害総額約>約13億円
被害の特徴	● 厚層川や美祿川が氾濫し、多くの家屋が浸水したほか、道路液面の崩壊、JR美祿線の線路1.7kmほどによる交通網の寸断、水害被害の拡大による大規模な浸水が発生した。

教訓事例による「命」の救済で、人的な被害や被害の発生は防止した。
美祿町や豊田町のうちに避難所に雨が降るため、漏雨や氾濫が次々に発生したり、河川が氾濫に陥りたりするから注意してね。

体験談 「「来る、来る、来る」路地はまるで川のよう ～川の氾濫の大変さ実感～」 山崎小野田 女性 養子お静

報道されたときに川の水の色を聞いて、「あ、違う」と感じていました。...
 「来る、来る、来る」路地はまるで川のよう...
 川からどんどん水が上がり始める。氾濫は水がはけられなくなっていますから、川と道路の境がなくなってきて、橋が壊れるまで川のようになり、水が濁って見えます。...

体験談 「「上のうが必要になるなんて夢にも思わず ～今までの経験が裏目に～」 山崎小野田 女性 養子お静

受けてはいるけれど、という感じだったので、自分で考え...
 「上のうが必要になるなんて夢にも思わず...」
 水がたまたまと急に押し上げて来た時は、「これはもう水が...」

トピックス — 避難をするときに注意する事 —

次の方に注意して、避難しよう。
 避難は早急にして徒歩で。
 避難するときに持ち出す荷物は最小にする。
 水がある限りは必要物資とは、足元を注意し、靴や履物を濡らさない。
 避難は安全な場所へ、避難は早い方がいい。できるだけ早く避難する。
 避難所へ避難する人との声かけがあったら、ある程度まで避難する。

①情報伝達、避難等に関する取組

簡易型水位計による水害リスク情報の提供

令和3年6月より「簡易型水位計」の運用を開始し、これまで水位計の無かった河川や地先レベルでのきめ細やかな水位把握が必要な河川への水位計の普及を促進し、水位観測網を充実させています。

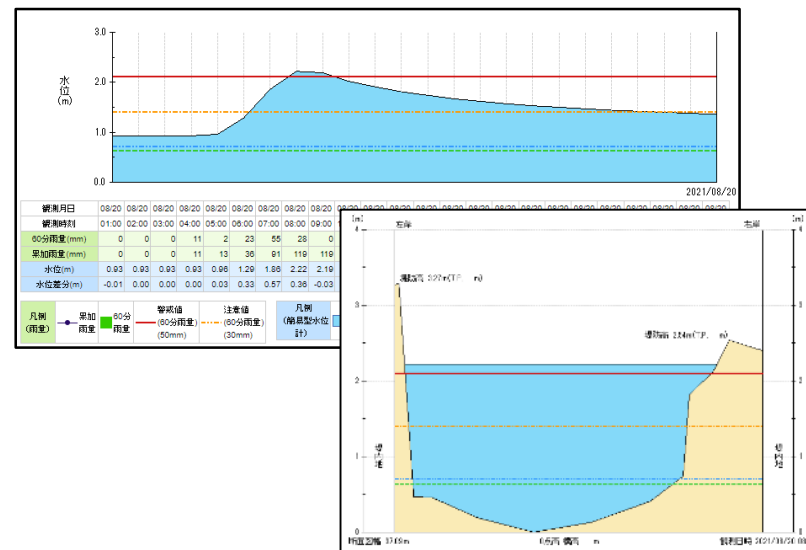
簡易型水位計の概要

- 洪水時の水位観測に特化し、小型化・軽量化を図った低コストな水位計
- 過去の浸水被害や社会福祉施設、学校等の要配慮者利用施設の立地場所等を総合的に勘案し設置箇所を選定
- 周辺住民の自主避難の判断などに活用されることを期待



▲簡易型水位計

県内56か所で運用中



出典：山口県土木防災情報システム

▲簡易型水位計の水位表示の例

②効果的な水防活動に向けた取組

■洪水に対しリスクが高い区間の情報共有

- 毎年、出水期前に各河川の基準水位や重点監視箇所等の情報共有を図った。
- また、氾濫危険水位を超過した河川については緊急巡視を行い、その結果については速やかに関係機関と情報共有する体制を整備した。

重点監視箇所等のリスク情報の共有

各水位局における基準水位や、重点監視箇所など、洪水時におけるリスク情報について、毎年、出水期前に河川管理者から通知し、情報共有を図っています。

(1)洪水時の情報提供～①基準水位観測所における設定水位の意味～ 国土交通省

○ 国や都道府県では、洪水時において、予め定められた水位観測所における水位の情報を提供しています。この予め定められた水位観測所を「基準水位観測所」といいます。

○ 基準水位観測所毎に、災害発生時の危険度に応じた**基準水位**が設定されています。

レベル	水位など	基準水位観測所における設定水位の意味 (危険な箇所を特定した以下の水位を、基準水位観測所毎の水位に置き換えて設定)
5 (危険)	氾濫の発生	【氾濫危険水位】 ・市町村長・住民の避難指示等の緊急事態の発生、
4 (注意)	特別警戒水位 氾濫危険水位	【避難判断水位】 ・市町村長・住民の避難指示等の緊急事態の発生、
3 (注意)	避難判断水位	【氾濫注意水位】 ・水防団の出動、
2 (注意)	氾濫注意水位	【氾濫注意水位】 ・水防団の出動、
1 (注意)	氾濫注意水位	【氾濫注意水位】 ・水防団の出動、

注: 上記の位置づけ等は、「越えを強化し、危険がある場合」

(2)洪水時の情報提供～②基準水位観測所の意味(区間代表性)～ 国土交通省

○ 各基準水位観測所にはそれぞれ**受け持ち区間**があります。

○ 基準水位観測所の水位は、受け持ち区間内の**堤防の低い地点**で決まっていますので、水位の情報は、観測所地点の情報(点の情報)ではなく、**受け持ち区間の情報(線の情報)**として見る必要があります。

氾濫危険水位は、基準水位観測所の受け持ち区間毎に堤防の低い箇所**で決められています。**

※関東地方整備局資料

▲情報提供に関する資料

河川巡視情報の共有

重大な異常を発見した場合に速やかに対応できるよう、河川の重要度に応じて、定期的な巡視点検を行っています。また、出水時においては、氾濫危険水位を超過した河川について緊急巡視を行い、応急対応や二次被害の防止を図るため、その結果については速やかに関係機関と情報共有しています。

FAX送信表 (緊急巡視・水位低下後巡視) した結果を下記のとおり送付します。 山口県△土木建築事務所

通知先	△土木建築事務所	通知先	県庁河川課	□口市町	下関地方気象台
通知日時	日 時 分	受信日時	日 時 分	日 時 分	日 時 分
通知者		受信者			

別紙

避難情報確認欄 (巡視箇所の避難情報を確認後チェックすること)

河川名: _____ 巡視時刻: 時 分 ~ 時 分

項目	内容 (●: 住民の安全に関わる情報)	巡視箇所(該当があれば○、手書き可)	記入例 □口市町 □口地区
浸水状況	● 浸水しているか。		
堤防	● 決壊しているか。 ● 決壊のおそれがあるか。 (湧水、亀裂、崩壊、沈下等)		○
堤辺河道	● 崩壊しているか。 ● 崩壊のおそれがあるか。 (亀裂、ほらみ出し、吸出し、基礎部の変状等)		○ (亀裂)
河道内	● 土砂や流木等で埋塞し背後地に溢れているか。 ● 次期出水時に背後地に溢れるおそれがあるか。		○
背後地の状況	● 家屋被害があるか。 ● 次期出水時に家屋被害を受けるおそれがあるか。		○
応急工事	● 応急工事を行う必要があるか。		○
その他			

※ 巡視中に●の異常を発見した場合は、ただちに土木事務所へ報告し、土木事務所から市町、気象台等に伝達すること。
 ※ 異常箇所は、位置図(手書き可)もFAXすること。また、●の異常箇所は、状況写真を別途メールすること。
 ※ 治水管理官等は、治水区域図(手書き可)もあわせてFAXすること。
 ※ 列記している項目以外で重要な情報があった場合は、その他欄に内容を記載し、報告すること。

▲緊急巡視等様式

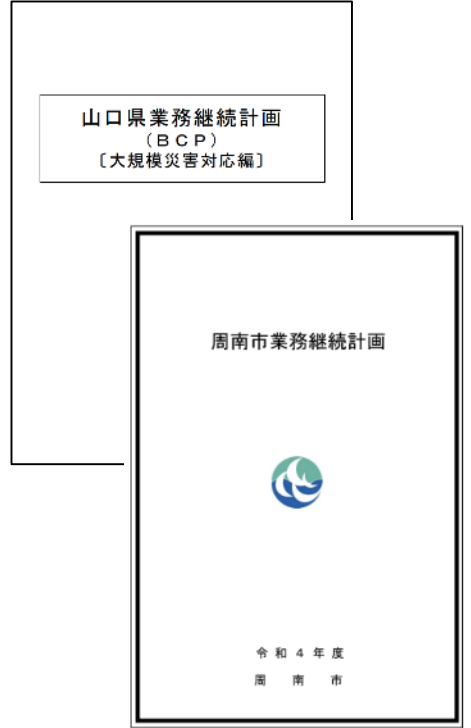
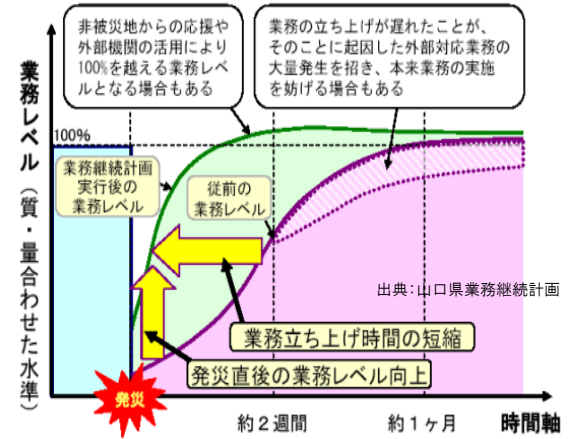
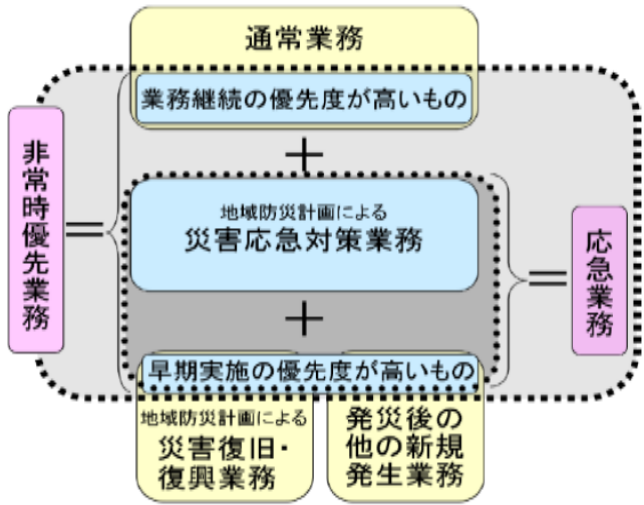
②効果的な水防活動に向けた取組

■庁舎等の浸水に備えた業務継続計画の検討

➤ 庁舎等の被災時、業務立ち上げ時間の短縮や、発災直後の業務レベルの向上等を図るため、業務継続計画(BCP)に基づく対応について確認した。

■業務継続計画(BCP(Business Continuity Plan))の確認、検討

災害に伴う応急業務や優先度の高い通常業務を、発災直後から適切に実施できるよう、「山口県業務継続計画」や「周南市業務継続計画」を策定し、適宜改定を行っています。



▲業務継続計画(BCP)の考え方

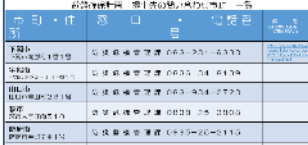
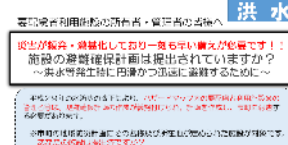
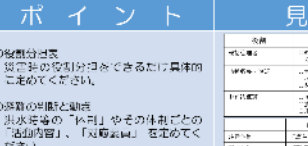

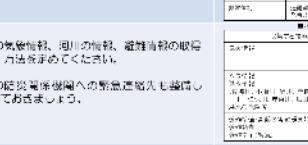
③住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

■要配慮者利用施設の管理者に対する説明等

▶ 水防法における義務的な対応について周知し、要配慮者利用施設の防災対応力の強化を図った。

■避難確保計画の策定等の対応について助言・指導・支援

要配慮者利用施設の管理者等に対して、避難確保計画の策定など、水防法で位置付けられた対応について周知するとともに、水害リスクの周知を行いました。また、ひな形、チェックリストなどを作成し、避難確保計画の策定及び提出を支援しました。

項目	ポイント	見本
1. 施設体制	<ul style="list-style-type: none"> 避難責任者、緊急時の交代が可能なように具体的指定をしておくこと。 避難の準備と動員、水害発生時の「役割」やその体制などの「活動計画」、「避難経路」を定めておくこと。 	
2. 情報収集・伝達	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報、河川の情報、避難情報の取得方法を定めておくこと。 防災関係機関への緊急連絡先も確認しておくこと。 	
3. 避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> 市町から配布されているリーフレットや避難経路、避難経路、移動手段などを定めておくこと。 	
4. 避難設備	<ul style="list-style-type: none"> 避難収容する設備、避難に使用する家具、資材・水などの備蓄品を定めておくこと。 	
5. 教育・訓練	<ul style="list-style-type: none"> 訓練を計画して、定期的に訓練・訓練を実施しおくこと。 	

子施設 施設名称	子施設 施設名称	
施設所在地のハザードの種類	子施設 指定区域 土砂災害計画区域	
計画の項目	チェック項目	チェック欄
(ア) 防災体制、情報の収集・伝達	施設のある地域における、浸水するおそれのある河川の情報、土砂災害に関する情報の避難情報を収集・伝達する体制が定められているか 避難準備・高齢者等避難開始の発令の段階で要配慮者の避難誘導を行う体制となっているか 避難準備・高齢者等避難開始の発令が無い場合でも避難の判断ができるよう、複数の避難経路が設定されているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
(イ) 避難誘導	避難先は避難の実効性が確保された場所に設定されているか 避難誘導がリスク情報を踏まえた実現可能なルート上に設定されているか 必要に応じ、地域の協力を得られる体制が準備されているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
(ウ) 施設設備	洪水予報、土砂災害に関する情報や避難情報を入力するための施設が設置されているか 夜間に避難を行うことが想定される場合、そのために必要な設備が設置されているか 屋内安全確保を行う場合に備え、施設内での滞在に必要な物資が確保されているか	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
(エ) 教育・訓練	適切な時期に必要な教育・訓練の実施が設定されているか	<input type="checkbox"/>
(オ) 自衛水防組織（設置した場合のみ）	自衛水防組織が設置されている場合、その業務内容が規定され、計画に記載されているか	<input type="checkbox"/>

▲チェックリスト(山口県)

【格式1】

1. 計画の目的

この計画は、主として河川の洪水被害の発生から避難確保の確保を図ることを目的とする。なお、河川に隣接する施設等については、洪水被害を軽減することを旨とする。施設等が被害を受け、施設が被害を受けるとして、洪水に被害を受けることにより、避難確保が困難となる場合には、避難確保を確保していることとする。

2. 計画の趣旨

計画を作成するに当たっては、命を守ることを最優先とし、避難準備・高齢者等避難開始後、避難確保を確保することとする。

3. 計画の適用範囲

この計画は、本施設に属する施設に適用するものとする。

施設名称

年度	計画	実施	評価

社会福祉施設
避難確保計画

対象災害：水害（洪水）

【施設名： _____】

_____ 年 月 作成

▲ひな形(周南市)

▲リーフレット(山口県)

③住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

■ 出前講座等を活用した河川防災情報の周知

- ▶ 防災情報の周知に係る広報活動を推進し、防災意識の啓発を図った。
- ▶ また、関係機関や教育機関と連携し、防災学習の充実化を図った。

■ 防災意識の啓発に向けた広報活動の推進

防災ガイドブック、チラシ、HP、CATV等、多様な手段を活用して、防災情報の発信を推進しました。

○ やまぐち防災学習館の開設

家庭や地域で、防災や災害について「知り」、「備え」、「行動する」ために必要な資料をとりまとめた「やまぐち防災学習館」を、県HPに開設しました。資料は、家庭、地域、学校の防災学習に活用する場合は自由に二次利用することを可能にしています。



- 知る**
 - 家庭や地域の危険を知る
 - 過去の災害から学ぶ
 - 防災情報・気象情報を知る
 - 災害時の情報の入手方法を確認する

- 備える**
 - 1 家庭や個人で備える
 - 2 地域で備える
 - 地域で声を掛け合って避難する
 - 避難所の運営を考える
 - 防災学習・研修の講師を探す
 - 訓練を行う

○ 広報誌等による防災情報の発信

広報誌等において防災情報を発信し、住民の防災意識の啓発に取り組んでいます。



▲山口県広報誌「ふれあい山口」

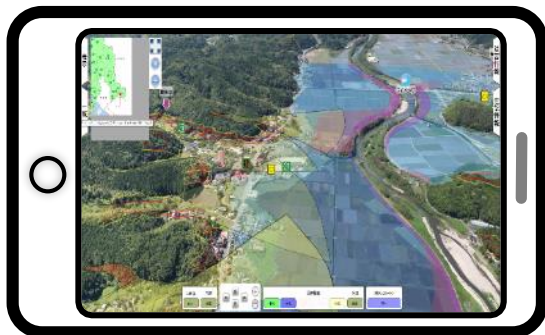
③住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

出前講座や防災学習の推進

周南市防災アドバイザー、職員等による出前講座や防災ワークショップを開催し、防災教育、防災学習の取組を推進しました。また、自治体職員の防災対応力の強化を図るため、防災対応ワークショップや勉強会を開催しました。

○ 出前講座等を活用した防災意識の啓発

自治会等を対象にした出前講座や、学校等における防災学習などの機会を通じて、防災意識の啓発に取り組んでいます。



小学校の授業では、iPadを使用し、Web版ハザードマップを活用した危険箇所の確認等を行っています。

○ AR機器を活用した防災体験学習講座の実施

子供たちに災害の恐ろしさや事前の備え、とるべき対応について理解と関心を促し、家庭等での備えにつなげるため、AR(拡張現実)機器による浸水体験を中心とした防災体験学習講座を実施しています。



- ・50cmの水に浸かったら？
- ・移動できる？
- ・木が流れて来たら？

○ 避難カードの作成

地域の危険を確認する方法や避難情報などの意味、情報のとり方を学びながら作成できる「避難カード」を全ての小中学生に配布しています。

わたし()の避難カード			
【自宅の災害リスクと避難のタイミング】			
災害の種類	どのような危険があるか(災害リスク)	いつ避げるか(避難の目安・タイミング)	どこに避げるか(避難場所)
【家族や知りになる人の緊急連絡先】			
名前	連絡先	(家の周りの地図)	
【持ち出すもの(避難所で手に入らぬもの)】			
<input type="checkbox"/> 防災リュック	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 携帯充電器	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
【避難を呼びかける人とタイミング】			
声をかける人(一緒に避げる人)	いつ声をかけるか(声をかけるタイミング)	連絡先	気をつけること(持ち物など)

紹介動画



1 AR機器を用いた浸水の疑似体験 知る

■ 浸水災害を疑似体験し、**危険性を知る。**

2 体験を踏まえ、災害や必要な備えなどを学ぶ 学ぶ

■ ARで**体験した状況が、実際に発生している**ことを学ぶ (自分ごととしてとらえる)

3 避難カードを作成・家庭等で備える 備える

■ 家の周りの**危険や避難のタイミング、避難場所**などを避難カードに記入 (家庭での話し合い)

■ 県ウェブサイト「やまぐち防災学習館」において、印刷用データや「避難カードの作り方」動画を掲載中

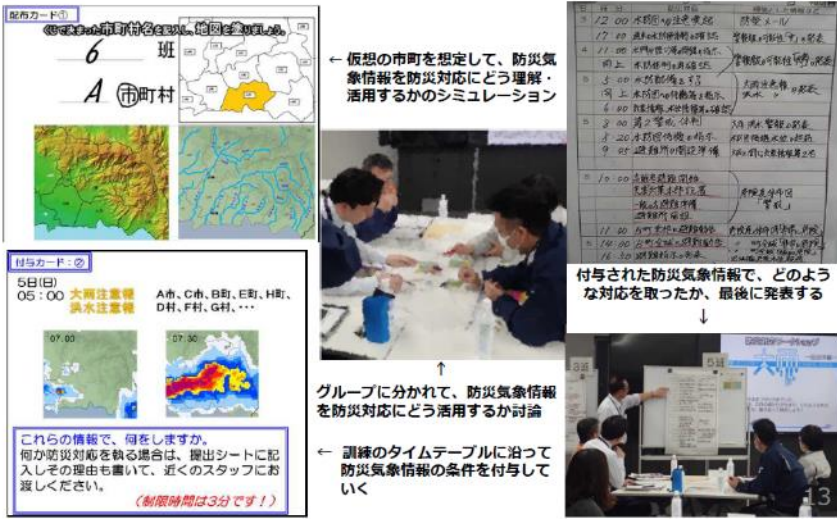
③住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

○ 防災ワークショップの実施

気象台から発表される防災気象情報をもとに、どのような対応を取るべきかをシミュレーションを行い、自治体職員についても、防災対応力向上や防災意識の啓発を図っています。

訓練プログラム『気象防災ワークショップ』

気象台から発表（提供）される防災気象情報を活用し、災害リスクを読み解く力を付けていただくことを目的とした大雨防災対応シミュレーションゲーム



← 仮想の市町を想定して、防災気象情報を防災対応にどう理解・活用するかをシミュレーション

付与された防災気象情報で、どのような対応を取ったか、最後に発表する

↑ グループに分かれて、防災気象情報を防災対応にどう活用するか討論

← 訓練のタイムテーブルに沿って防災気象情報の条件を付与していく

（制限時間は3分です！）

○ ダムに関する理解の向上

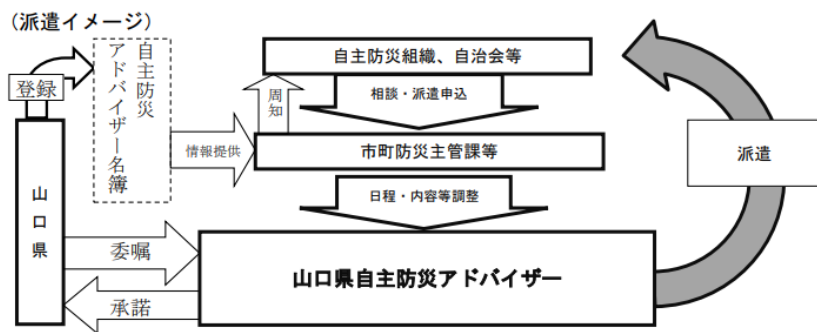
「森と湖に親しむ旬間」の一環としてダム見学会を実施し、ダムの機能や効果、役割について説明を行い、ダムに関する知識を深めていただいています。



▲見学会のイメージ

○ 自主防災アドバイザーの養成・派遣

地域における災害対応力の向上を図るため、自主防災組織等への指導・助言を行えるスキルとノウハウを備えた「自主防災アドバイザー」を養成・派遣し、自主防災組織等が実施する研修・訓練等への支援を行っています。



▲山口県自主防災アドバイザー制度



▲山口県自主防災アドバイザー養成研修

③住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

■住民等の的確な避難行動を促すための河川防災情報の周知方法の検討

- ▶ 防災・災害情報の発信に係る県民の認知度の向上に努めたほか、関係機関、報道機関等と連携し、わかりやすく精度の高い情報の発信や伝達の迅速化を図った。
- ▶ また、警報・注意報等の防災情報に係る精度の向上や改善を図った。

河川監視カメラによる河川水位情報の提供

R5年度整備予定
富田川(川本)

洪水時の監視体制の強化を図り、住民等の的確な避難行動を促すことを期待し、河川監視カメラの整備を進め、より分かりやすい河川情報の発信に努めています。

河川監視カメラの概要

- ・ 静止画の撮影に特化し、ズームや首振り機能を削減した低コストなカメラ
- ・ 住民の避難行動を促すリアリティのある画像をリアルタイムに提供



▲河川監視カメラ



出典：山口県土木防災情報システム

▲河川監視カメラの画像表示の例

平常時

↓

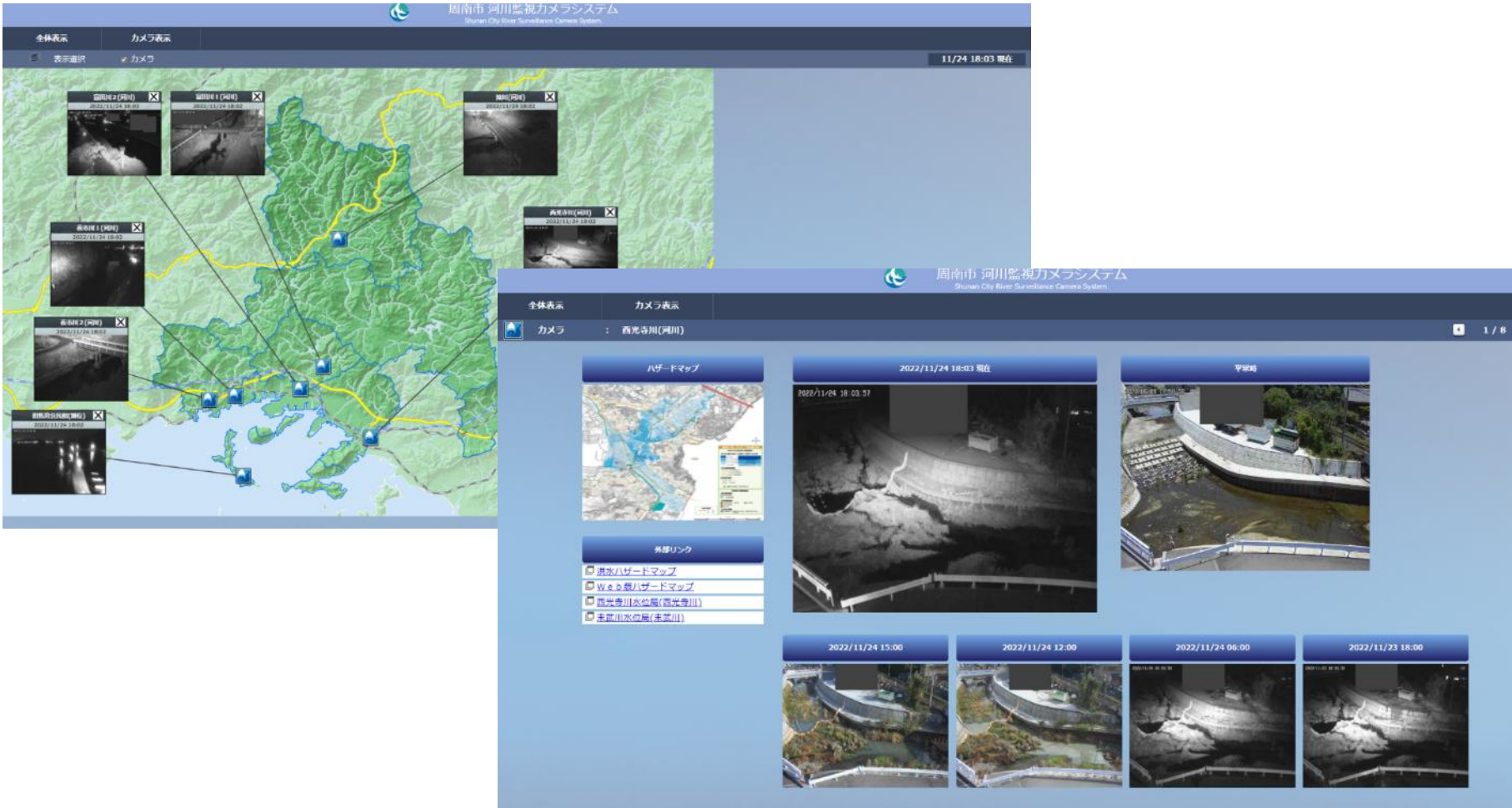
洪水時

R3.8.14(臥龍橋)

③住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

○ 周南市河川監視カメラシステムの運用

大雨時などに、河川の状況確認の参考となるよう、周南市では独自に市内5河川7箇所(島田川、西光寺川、錦川、富田川2カ所、夜市川2カ所)に河川カメラを設置しました。



▲河川監視カメラの画像表示の例

③住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

よりわかりやすい情報発信方法の検討や幅広い周知

住民等の的確な避難行動を促すため、よりわかりやすい情報発信に努めています。

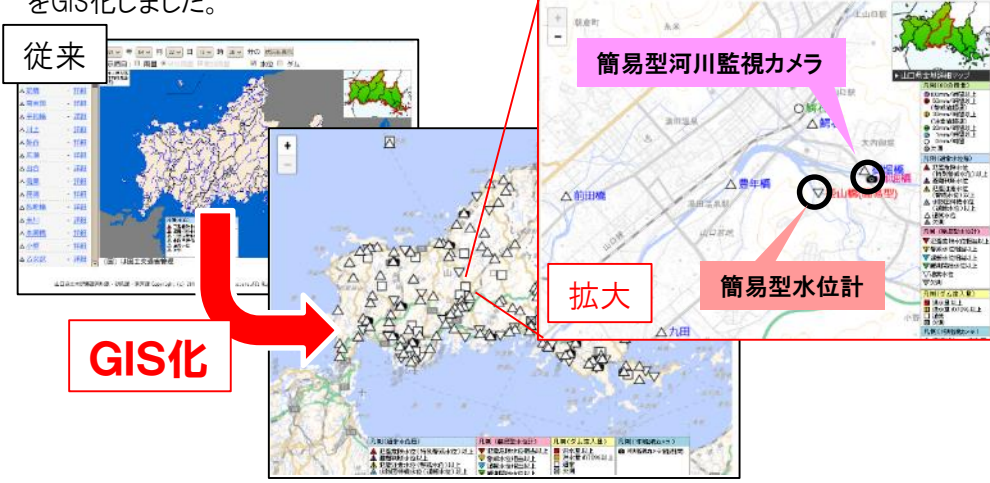
○ 気象庁ホームページのリニューアル

様々な防災気象情報が一つのページで見やすく確認できるようになったほか、スマートフォンでも見やすくなりました。



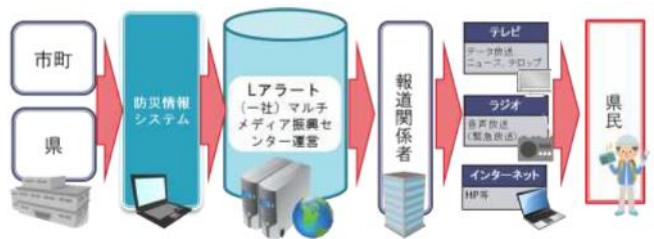
○ 山口県土木防災情報システムの改修

簡易型水位計や河川監視カメラの導入による観測箇所の増に併せて、地図情報をGIS化しました。



○ 防災やまぐちの周知

県内市町の避難指示等の発令状況や避難所の開設状況、気象情報などの防災関連情報を集約し、県民向けに発信する「防災やまぐち」の認知度向上を図っています。



▲防災やまぐち

③住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

防災気象情報の発表方法の改善や精度向上

大雨警報・注意報、洪水警報・注意報の基準の見直しや、キキクル等の精度向上に取り組んでいます。また、自治体防災担当者向けの勉強会や、報道機関向けの広報活動を実施し、防災気象情報の理解促進を図っています。

○ 「線状降水帯」による大雨の可能性の呼びかけ

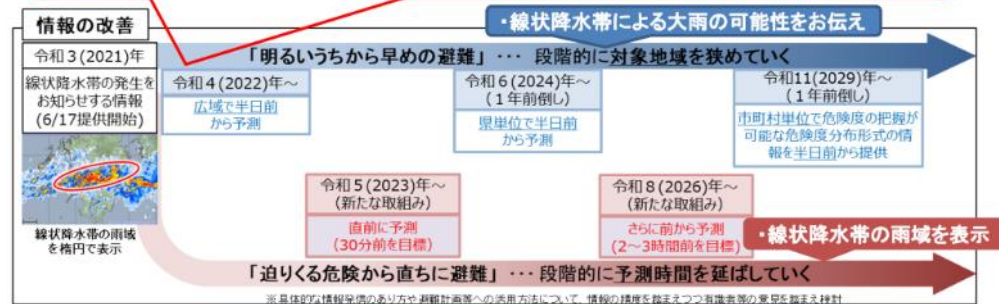
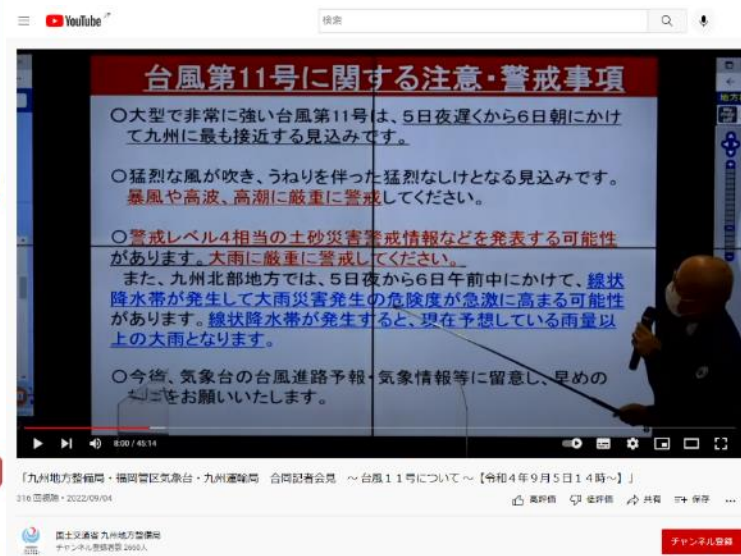
線状降水帯が発生すると、災害発生の危険度が急激に高まることもあるため、「線状降水帯」というキーワードを使った呼びかけを開始しました。また、令和4年6月1日からは線状降水帯の発生の予測を開始し、「九州北部」など大まかな地域を対象に半日前から情報の提供を行っており、今後も、段階的に精度向上を図ることとしています。

「線状降水帯」による大雨の可能性を半日前からお伝えします

国土交通省
令和4年
6月1日～



大雨災害に対する危機感を国民ひとりひとり早めに伝え、ハザードマップの確認など、災害への備えを促します



▲記者会見の様子

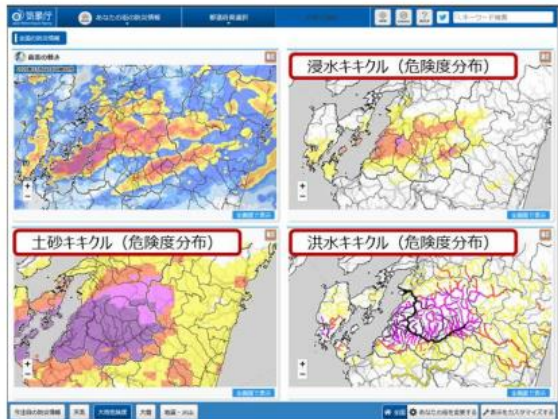
③住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

○ キキクル(危険度分布)の広報・普及促進

「危険度分布」の愛称を公募し、「キキクル」に決定しました。精度向上に取り組むとともに、いざというときの自主的な避難の判断に活用していただけるよう、認知度の向上に努めています。



長官会見で決定した愛称を発表



○ 警報・注意報の精度向上

大雨警報・注意報、洪水警報・注意報の基準の定期的見直しや除外格子の設定を進め、精度の向上に努めています。

大雨特別警報（浸水害）の指標の改善

令和4年 6月30日～ 国土交通省

<改善のポイント> 警戒レベル5相当の状況に一層適合させるよう、災害発生との結びつきが強い「指数」を用いて大雨特別警報（浸水害）の新たな基準値を設定。

<改善前の課題>
 大雨特別警報（浸水害）を発表したが多大な被害までは生じなかった事例が多みられる（例：平成26年8月の三重県の大雨事例、平成26年9月の北海道の大雨事例、平成29年7月の島根県の大雨事例）。
 また、多大な被害が発生したにもかかわらず、大雨特別警報（浸水害）の発表に至らなかった事例もみられる。

特別警報の指標に用いる基準値	大規模な浸水害を高い確度で適中させるよう指標、基準値を設定	
	中小河川氾濫に起因する大規模な浸水害を適中させるように 流域雨量指数 の指標、基準値を設定	内水氾濫に起因する大規模な浸水害を適中させるように 表面雨量指数 の指標、基準値を設定

洪水キキクル「災害切迫」(黒)の判定に用いる。 浸水キキクル「災害切迫」(黒)の判定に用いる。

- ✓ 大雨特別警報（浸水害）の対象地域を大幅に絞り込んだ発表が見込まれる。
- ✓ 島しょ部など狭い地域への発表も可能となる。
- ✓ 警戒レベル5相当の情報としての信頼度を高め、住民や自治体等の防災対応を強力に支援。

周南地域の減災に係る取組方針 (見え消し版)

平成30年2月23日

令和〇年〇月〇日

周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会

1 はじめに

平成27年9月の関東・東北豪雨では、施設の能力を上回る洪水により利根川水系鬼怒川の堤防が決壊し、氾濫流による家屋の倒壊・流失や広範囲かつ長期間の浸水が発生した。また、これらに住民の避難の遅れも加わり、近年の水害では例を見ないほどの多数の孤立者が発生する事態となった。~~今後、気候変動の影響により、このような施設の能力を上回る洪水の発生頻度が高まることが懸念される。~~

こうした背景から、国土交通省では、施設では守り切れない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づき、全国の直轄河川を対象として、減災に向けたハード、ソフト対策を一体的、総合的、計画的に進められているとされていくこととされた。

~~このような中、国土交通省では~~また、平成28年8月以降立て続けに東日本を襲った台風に伴う豪雨災害により、中小河川においても甚大な被害が発生したことを踏まえ、水害から命を守る「水防災意識社会」の再構築に向けた取組をさらに加速させ、全ての地域において取組を推進していく必要があるとされた。

~~さらに~~本県でも、平成21年、22年、25年、26年と豪雨による甚大な浸水被害を受けており、県管理河川においても、水防災意識社会の再構築に向けた取組を推進していく必要がある。

こうしたことから、減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的、総合的、計画的に推進するため、周南市、下関地方気象台及び山口県からなる「周南地域の県管理河川における大規模氾濫に関する減災対策協議会」（以下「本協議会」）を平成29年5月18日に設立した。

その後、水防法の改正により、「都道府県大規模氾濫減災協議会制度」が創設されたことに伴い、本協議会は、平成30年2月23日に水防法に基づく協議会に移行した。

本協議会では、~~周南地域において~~施設では防ぎきれない大規模水害に対し、「逃げ遅れゼロ」を目指すべく、「情報伝達、避難等に関する取組」、「効果的な水防活動に向けた取組」及び「住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組」を3本の柱として、各構成機関が一体的・計画的に取り組む事項について検討を進め、ソフト対策に係る事項を「周南地域の減災に係る取組方針」（以下「取組方針」）として取りまとめたうえ、減災に向けた対策を推進してきた。

また、近年は、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、これまでの「水防災意識社会」の再構築に向けた取組をさらに一歩進め、流域全体のあらゆる関係者が協働して行う持続可能な治水対策、「流域治水」への転換を推進し、防災・減災が主流となる社会の形成を目指すことが求められている。

本協議会は、今後引き続き、各構成機関が連携して減災に係る取組を推進し、進捗状況を共有するとともに、必要に応じて取組方針の見直しを行うなどのフォローアップを行い、水防災意識を高めていくこととする。

なお、本取組方針は、本協議会規約第 6 条に基づき作成したものである。

2 本協議会の構成機関及び委員

本協議会は、周南市、下関地方气象台、山口河川国道事務所、山口県で構成（以下「構成機関」という。）し、委員は以下のとおりである。

（委員） 周南市長
国土交通省 中国地方整備局 山口河川国道事務所長
気象庁 福岡管区气象台 下関地方气象台長
山口県 総務部 理事（危機管理担当）
〃 土木建築部 周南土木建築事務所長

3 周南地域の概要と主な課題

周南市は、山口県東南部の瀬戸内海側に位置し、市域の西部には夜市川、中央部に富田川が瀬戸内海周防灘に注いでいる。海岸線の平野部に沿って大規模な工場地帯が形成され、それに接して東西に長い市街地が広がる。市街地の北側にはなだらかな丘陵地が広がり、その背後には山地が広がる。

また、市域の海岸線に沿って国道2号・山陽新幹線・山陽本線・岩徳線が通り、東西の山間部を貫通する形で中国自動車道・国道376号が通り、南北に貫く形で国道315号・国道434号がある。

本地域を流れる河川は、一級河川は、佐波川水系島地川・十郎川・大谷川 及び串川、二級河川は、島田川水系島田川・笠野川・中村川・中村川・石光川・東川及び東繕寺川、錦川水系錦川・渋川・金峰川・長谷川・阿田川・須々万川・田代川及び坂根川、末武川水系末武川、西光寺川水系西光寺川、富田川水系富田川・神代川及び川曲川、夜市川水系夜市川及び的場川、東川水系東川がある。

本地域における課題としては、平野部に人口・資産が集中しており、ひとたび洪水等による氾濫が発生した場合、浸水により甚大な被害が発生する恐れがあり、住民生活に多大な影響をもたらすことが予想される。

4 現在の取組状況及び課題

周南地域における減災対策について、各構成機関で現状を確認し、課題を抽出後、整理を行った。

情報伝達、避難等に関する取組 (1/2)

項目	各機関の現状	各機関の課題	整理番号
洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングの設定 確認	洪水予報の発表や基準水位に達した旨の情報を発信	県・市相互の情報共有が必要	1
	防災行動とその実施主体を時系列で整理したタイムラインを作成・運用	タイムラインを作成し、防災行動の可視化・円滑化を図る関係機関で共有するとともに、時点修正等を適切に行うことが必要	2
	避難指示等の発令判断に資する情報の迅速な伝達・共有を図るため、ホットラインを運用	迅速な情報伝達を図られるよう、ホットラインの適切な運用が必要	3
避難勧告等の発令基準	避難勧告の基準となるマニュアルを作成・運用 ホットラインの運用により情報を伝達・共有(試行中、市より助言を求められた場合にも対応)	想定し得る最大規模の降雨を前提とした避難勧告等の判断基準の見直し及び迅速な情報伝達が必要	3
避難計画など住民等の避難体制	想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域図を基に避難所等を指定しており、計画降雨を前提としたハザードマップ等により周知	想定し得る最大規模の降雨を前提とした中小河川等における洪水浸水想定区域図を基にハザードマップの見直し・公表の指定が必要	4
	避難所看板の設置や更新等を実施	ハザードマップの作成や見直しにあわせ、避難所等の検討や案内看板等	5

	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成等について周知	による周知が必要	
	率先避難・呼びかけ避難の推進について周知	要配慮者利用施設の避難対策の検討や個別避難計画の作成が必要	6
		地域住民による自主的な避難体制づくりを推進することが必要	7
住民等への避難情報の伝達の体制や方法	防災情報システム、防災メール、ウェブサイト、報道機関等による情報伝達を実施を活用し、避難情報や避難所開設等の各種防災情報を提供	よりわかりやすい情報発信や幅広い周知、情報伝達の迅速化を図るとともに、各種情報伝達手段の認知度向上が必要	7 8
	氾濫危険水位等に基づく避難勧告指示等を発令する場合は、広報車等により周知	水害リスクが高い区域にある要配慮者利用施設への情報伝達方法の見直し周知等が必要	8 9
	機能強化した山口県総合防災情報ネットワークシステムを活用し、避難発令情報や避難所開設等の各種防災情報を提供 住民の取るべき行動を5段階の警戒レベルにより提供	防災・災害情報を発信する「防災やまぐち」について、県民の認知度の向上が必要 自主的な避難行動を判断するための参考となる「警戒レベル相当情報」等の理解の促進が必要	9 10

※令和3年5月20日から、避難勧告は廃止され、避難指示に一本化
効果的な水防活動に向けた取組

項目	各機関の現状	各機関の課題	整理番号
河川水位等に係る情報提供	水防警報等の水位情報を提供（防災システム、	よりわかりやすい情報発信や幅広い周知、情報	10 11

	防災メール等) 簡易型水位計、河川監視カメラを導入	伝達の迅速化が必要	
河川巡視	治水上の影響に応じた区間に区分し、巡視頻度等を定め、定期的な河川巡視を実施 出水後は緊急巡視等を実施	河川巡視や重要水防箇所の情報提供・共有を進める継続的に実施することが必要	44 12
水防資機材の整備状況	水防倉庫等に水防資機材を備蓄 水防計画において、水防資機材の保管位置や備蓄量を情報共有	水防活動を円滑に行うため、水防資機材の保管位置や備蓄量の継続的な情報共有が必要	42 13
庁舎等の水害時における状況		水害時においても業務を継続して行うための検討が必要	43

住民等への水害リスク情報の周知、防災学習に関する取組

項目	各機関の現状	各機関の課題	整理番号
リスクの周知	洪水予報河川や水位周知河川において、計画降雨を前提とした洪水浸水想定区域図・ハザードマップを作成・公表 水害履歴の調査・整理を行い、関係機関で共有	洪水予報河川・水位周知河川に指定されていない中小河川等において想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域図・ハザードマップの見直し作成・公表が必要	14
	報道機関等を通じた警報・注意報等の情報伝達を実施 特別警報の呼びかけ方	水位周知河川に指定されていない中小河川における水害リスク情報の把握・周知についても検討が必要	15

	<p>法や、警報・注意報の発表基準等の改善を実施</p>	<p>よりわかりやすい情報発信や幅広い周知、情報伝達の迅速化が必要</p>	<p>16 15</p>
	<p>気象庁ウェブサイトによる洪水キキクル警報の（危険度分布）の提供基準等の改善や民間事業者と連携した通知サービスを導入</p>	<p>警報・注意報等の防災気象情報の発表について方法の改善や、精度の向上について、継続的に検討することが必要</p>	<p>16</p>
		<p>中小河川等における洪水災害発生危険度の高まりを把握するため、洪水キキクル警報の（危険度分布）に利用している流域雨量指数の理解促進及び危険度と河川水位の比較検証について、より一層の周知が必要</p>	<p>17</p>
<p>防災意識の啓発活動</p>	<p>防災をテーマとした講演やAR（拡張現実）機器を活用した防災体験学習等を実施</p> <p>—また、自主防災組織の活性化を目的としたアドバイザー養成研修や県民を対象とした防災シンポジウムを開催</p> <p>周南市防災アドバイザーの派遣や職員による出前講座、自主防災組織研修を実施</p> <p>過去の被害を取りまとめた「災害教訓事例集」を改定</p> <p>「やまぐち防災学習館」等のWebサイトで、防災学習に活用できる資</p>	<p>水防災意識社会の再構築に向け、さらなる意識啓発に向けた取組が必要</p> <p>—想定し得る最大規模の降雨を前提としたハザードマップの公表に当たっては、住民等の的確な避難行動を促すための取組が必要</p>	<p>18</p>
		<p>関係機関や教育機関等が連携した防災学習の一層の充実が必要</p>	<p>19</p>

	<p>料を公開</p> <p>小中学生を対象に「避難カード」を配布</p> <p>気象台において、教育機関と連携した防災学習や自治体職員の防災対応力向上を図るためのワークショップ等を実施</p>		
--	---	--	--

5 減災のための目標

円滑かつ迅速な避難や的確な水防活動等を実施し、各構成機関が連携して達成すべき減災目標は以下のとおりである。

河川整備計画等に位置づけた河川整備を着実に推進し事業効果の早期発現を図りつつ、施設では防ぎきれない大規模水害に対し、各構成機関が連携して県管理河川の河川特性を踏まえたソフト対策に取り組み、「逃げ遅れゼロ」を目指す。

○ 5年間で達成すべき減災目標

県政の運営方針である『元氣創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン』^{*}に掲げた、「災害に強い県づくり推進プロジェクト」を実行するとともに、河川整備計画等に位置づけた河川整備を着実に推進し事業効果の早期発現を図りつつ、施設では防ぎきれない大規模水害に対し、周南市、下関地方气象台及び山口県が連携して県管理河川の河川特性を踏まえたソフト対策に取り組み、「逃げ遅れゼロ」を目指す。

~~※現在は、新たな県政運営の指針として『やまぐち維新プラン』を策定済~~

○ 目標達成に向けた3本柱の取組

- 1 情報伝達、避難等に関する取組
- 2 効果的な水防活動に向けた取組
- 3 住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

○ 目標を達成するための取組項目

- 1 情報伝達、避難等に関する取組
 - (1) 洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングの設定**確認**
 - ~~(2) 避難勧告等の発令判断を担う責任者（市長、行政管理部長等）と土木建築事務所長が直接情報を伝達、共有する体制（ホットライン）の構築~~
 - (2) 想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域の指定、周知と避難対策の強化
 - (3) 住民等への避難情報の伝達体制の強化洪水予報河川や水位周知河川に指定していない中小河川における水害リスク情報（過去の水害と流域内雨量の整理等）の充実

~~※令和3年5月20日から、避難勧告は廃止され、避難指示に一本化~~

2 効果的な水防活動に向けた取組

- (1) 水防資機材の情報共有及び相互支援方法の確認
- (2) 洪水に対しリスクが高い区間（各河川の重要水防箇所等）の情報共有
- ~~(3) 庁舎等の浸水に備えた業務継続計画の検討~~

3 住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

- (1) 要配慮者利用施設の管理者に対する説明等
- (2) 出前講座等を活用した河川防災情報の周知 **防災意識の啓発**
- (3) 住民等の的確な避難行動を促すための河川防災情報の周知 ~~方法の検討~~

6 おおむね5年で実施する取組

施設では防ぎきれない大規模水害に対し、「逃げ遅れゼロ」を目的に、~~とした~~各構成機関の取組項目・目標時期については、以下のとおりである。

情報伝達、避難等に関する取組

項目	対応	整理番号への対応	目標年度	取組主体
洪水時における河川管理者からの情報提供等の内容及びタイミングの設定 確認	<p>タイムラインの作成により、防災活動の可視化・円滑化を図る。</p> <p>洪水対応や訓練等により課題が見つかった場合等、必要に応じて「タイムライン」を検証、改訂する。</p> <p>河川の状況や気象情報等を迅速に伝達、共有するための「ホットライン」を適切に運用する。</p>	1, 2, 73	30～ 継続	全体
避難勧告等の発令判断を担う責任者（市長、行政管理部長等）と土木建築事務所長が直接情報を伝達、共有する体制（ ホットライン ）の構築	<p>ホットラインの本格運用により、情報伝達、情報共有の強化を図る。</p>	3	30	県、市
想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域の指定、周知と避難対策の強化	<p>想定し得る最大規模の降雨を前提とした洪水浸水想定区域・ハザードマップの見直し・公表を行うとともに、洪水予報河川・水位周知河川に指定していない中小河川等においても浸水想定区域を指定するとともに、避難所等の見直しを行うなど、避難対策の強化を図る。</p>	3, 4, 5, 6, 8, 14	30～ R3～	県、市

	要配慮者利用施設における避難確保計画や個別避難計画の作成等を促進し、避難の実効性確保に努める。	6	継続	県、市
	自主防災組織の育成や活動の支援等により、地域住民の自主的な避難行動等を促進し、避難体制の強化を図る。	7	継続	県、市
住民等への避難情報の伝達体制の強化	防災メール等の多様な情報伝達手段について普及・啓発等を図る。	8,9	継続	全体
	住民等の的確な避難行動を促す各種防災情報について、内容をわかりやすく周知し、理解の向上を図る。	8,10	継続	全体
洪水予報や水位周知河川に指定していない中小河川における水害リスク情報(過去の水害と流域内雨量の整理等)の充実	—過去の水害履歴等の把握に努めるとともに、把握した水害リスク情報の周知を行う。—	15	30～	県、市

※令和3年5月20日から、避難勧告は廃止され、避難指示に一本化

効果的な水防活動に向けた取組

項目	対応	整理番号への対応	目標年度	取組主体
水防資機材の情報共有及び相互支援方法の確認	水防倉庫の位置の周知や備蓄量等の情報共有により、水防活動の円滑化を図る。	12,13	30 継続	県、市
洪水に対しリスクが高い区間(各河川の重要水防箇所等)の情報共有	河川巡視や重要水防箇所の情報をあらかじめ共有するとともに、リアルタイムの水位情報の共有に	11,12	30 継続	県、市

	より、水防活動の円滑化を図る。			
庁舎等の浸水に備えた業務継続計画の検討	庁舎等の浸水に備えた業務継続計画を検討する。	13	31～	県、市

住民等への水害リスク情報の周知、防災学習等に関する取組

項目	対応	整理番号への対応	目標年度	取組主体
要配慮者利用施設の管理者に対する説明等	管理者への水害リスク情報の周知に努め、水防法改正に伴う義務的な対応について指導する。	6, 8, 9	30～ 継続	県、市
出前講座等を活用した河川防災情報の周知 防災意識の啓発	関係機関、教育機関と連携し、広報活動の推進や防災学習等の一層の充実を図る。	7, 18, 19	30～ 継続	全体
住民等の的確な避難行動を促すための河川防災情報の周知方法の検討	洪水浸水想定区域図やハザードマップを作成・公表するなど、中小河川等における水害リスク情報の充実化を図る。	4, 14	R3～	県、市
	避難行動のきっかけとなる河川水位情報等の充実化や、防災情報伝達手段の普及・啓発等を図る。	8, 11	継続	全体
	関係機関、報道機関等と連携し、わかりやすく精度の高い情報の発信や伝達の迅速化を図る。	9, 10, 15, 16, 17	30～ 継続	全体

7 フォローアップ

原則、本協議会を出水期前に開催することで、取組の進捗状況を確認し、必要に応じて取組方針の見直しや取組内容の改善など、継続的なフォローアップを行うこととする。